

＜感染状況について＞

- 全国の新規感染者数(報告日別)は、直近の1週間では10万人あたり約240で、今週先週比が1.04となり、足下で増加傾向となっているが、先週の連休の影響もあるため今後の動向に注意が必要。
- 全国のこれまでの新規感染者数減少の動きに伴い、療養者数、重症者数及び死亡者数は減少が継続している。
実効再生産数：全国的には、直近(3/13)で0.95と1を下回る水準となっており、首都圏では0.95、関西圏では0.90となっている。

＜地域の動向＞ ※新規感染者数の数値は、報告日ベースの直近1週間合計の対人口10万人の値。

北海道	新規感染者数は今週先週比が1.07と増加に転じ、約214(札幌市約285)。20代が中心。病床使用率は1割強。
北関東	茨城の新規感染者数は今週先週比が0.80と1を下回り、約269。20代以下が中心。病床使用率は3割弱。栃木、群馬では今週先週比はそれぞれ1.25、1.04と増加に転じ、新規感染者数はそれぞれ約213、201。病床使用率について、栃木では2割強、群馬では4割弱。
首都圏 (1都3県)	東京の新規感染者数は今週先週比が1.05と増加に転じ、約358。20代以下が中心。病床使用率、重症病床使用率はいずれも2割強。埼玉でも今週先週比が1.01と増加に転じ、新規感染者数は約325。千葉、神奈川では今週先週比がそれぞれ0.95、0.86と1を下回り、新規感染者数はそれぞれ約265、277。病床使用率について、埼玉では約4割、千葉では約3割、神奈川では4割強。重症病床使用率について、神奈川では約2割。
中京・東海	愛知の新規感染者数は今週先週比が1.15と増加に転じ、約239。20代以下が中心。病床使用率は約3割。岐阜、三重でも今週先週比がそれぞれ1.29、1.20と増加に転じ、新規感染者数はそれぞれ約169、175。静岡では今週先週比が0.93と1を下回り、新規感染者数は約169。病床使用率について、岐阜、三重では2割強、静岡では2割弱。
関西圏	大阪の新規感染者数は今週先週比が1.08と増加に転じ、約291。20代以下が中心。病床使用率は3割強、重症病床使用率は3割弱。滋賀、兵庫、和歌山でも今週先週比がそれぞれ1.03、1.03、1.14と増加に転じ、新規感染者数はそれぞれ約277、240、125。京都、奈良では今週先週比がそれぞれ0.99、0.79と1を下回り、新規感染者数はそれぞれ約215、189。病床使用率について、滋賀では4割弱、京都、兵庫では約3割、奈良では3割強、和歌山では約2割。重症病床使用率について、奈良では3割強。
九州	福岡の新規感染者数は今週先週比が1.08と増加に転じ、約268。20代が中心。病床使用率は3割弱。佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島でも今週先週比がそれぞれ1.34、1.16、1.02、1.39、1.18、1.71と増加に転じ、新規感染者数はそれぞれ約235、123、161、173、154、232。病床使用率について、佐賀では約2割、長崎では1割強、熊本、大分では2割強、宮崎では約1割、鹿児島では3割強。
沖縄	新規感染者数は今週先週比が1.35と増加に転じ、約394と全国で最も高い。新規感染者は20代以下が中心であり、20代の増加傾向に注意。病床使用率は2割強。
上記以外	青森、秋田、山梨、香川では今週先週比がそれぞれ1.05、1.40、1.25、1.0となり、新規感染者数はそれぞれ約284、185、187、233。石川では今週先週比が0.76となり、新規感染者数は約140。病床使用率について、青森では約3割、秋田では3割弱、石川では1割強、山梨では5割弱、香川では3割強。

<今後の見通しと必要な対策>

○ 感染状況について

- 新規感染者数は、全国的にみれば、1か月以上にわたり実効再生産数及び今週先週比が1以下で緩やかな減少が続いていたが、この数日の1週間の移動平均は増加傾向となっている。先週の連休による数値への影響に注意が必要であり、この増加傾向がリバウンドにつながるかは、感染状況を引き続き注視していく必要がある。
- 新規感染者における20代の割合の増加傾向が見られる。また、感染場所として、20代では飲食店の割合が増加傾向にある。高齢者では、介護福祉施設や医療機関における感染が継続している。また、足下で増加傾向が見られる鹿児島県や沖縄県などでは、特に20代の増加が顕著となっている。
- 東京都における20代の新規感染者数は減少から下げ止まりで推移。また、発熱等相談件数や救急医療の東京ルール適用件数は横ばいで、検査人数は減少傾向にあるが、検査陽性率は増加傾向に転じている。リバウンドの兆候の可能性もあり、注意が必要。

○ 感染の増加要因と抑制要因について

以下のような感染の増加要因と抑制要因の変化が、今後の感染状況に影響するものと考えられる。

【接触パターンについて】夜間滞留人口については、重点措置解除後、おおむね全国的に増加しており、一部の地域においては、直近1週間での急増や継続的な増加傾向を示している。これからお花見、謝恩会、歓送迎会などの時期を迎え、特に夜間滞留人口の増加が新規感染者の増加要因となりうる。一方、夜間滞留人口が減少している地域もある。子どもについては、春休みになり学校での接触は減るものの、それ以外の場で接触機会が増加するので要注意。

【流行株について】今後BA.2系統に置き換わりが進むことが新規感染者の増加要因となりうる。ヨーロッパではBA.2系統への置き換わりが進み、感染者だけではなく重症者・死亡者が増加に転じている国もあり(例:英国)、十分な注意が必要。

【ワクチン接種等について】3回目接種の主な目的は発症予防・重症化予防である。3回目接種は高齢者で進む一方、若年層では接種率がまだ低いが、これから接種対象になることで接種が進むことが期待される。オミクロン株に対する感染予防効果はデルタ株に比較しても低く、しかも持続期間が短いことに留意が必要。3回目接種の感染予防効果も時間経過に伴い今後減弱していくことが予想。また、これまでの感染による免疫保持については、地域の発生動向に影響する可能性もある。

【気候要因について】これから春に向けて気温が上昇していくことにより、換気を行いやすい気候条件になる。屋内で過ごすことが減ることも感染者抑制には一定の効果があると考えられるが、今年のこの時期に感染が拡大したことには留意が必要。

○ 医療提供体制について

- 全国的なこれまでの新規感染者数の減少に伴い、病床使用率や自宅療養者数についても、地域差はあるものの、低下傾向が継続している。ただし、宿泊療養者数については、下げ止まりや横ばいの地域がある。
- 救急搬送困難事案について、非コロナ疑い事案及びコロナ疑い事案ともに減少傾向が続いているが、未だ昨年夏のピークと同程度の高いレベルにあり、新型コロナウイルス感染症に係る医療と通常医療、特に救急医療とのバランスに留意すべき。

・オミクロン株による感染拡大を踏まえた取組

【サーベイランス等】発生動向把握のため、実効性ある適切なサーベイランスの検討が必要。また、変異株監視体制について、BA.1系統からBA.2系統への置き換わりに関し、ゲノムサーベイランスで動向の監視を継続することが必要。さらに、重症例やクラスター事例等では、変異株PCR検査や全ゲノム解析による確認が求められる。

【自治体における取組】自治体では、地域の感染状況に基づき、必要病床数と医療従事者の確保や地域に必要な保健所機能の維持と体制強化のための応援確保、自宅療養者に対する訪問診療やオンライン診療体制の構築に引き続き取り組むことが必要。高齢者や基礎疾患のある者など、重症化リスクのある患者を対象とする経口治療薬や中和抗体薬を迅速に投与できる体制の確保も引き続き求められる。また、新型コロナウイルス感染症に罹患しても、基礎疾患の治療が継続できるような体制を整えることが必要。

健康観察等の重点化や患者発生届の処理の効率化など事務連絡に基づき、効率的な保健所業務の実施が求められる。

また、濃厚接触者の特定や待機については、地域の感染状況に応じて、適切な感染対策を行うことを原則としつつ、オミクロン株の特徴（潜伏期間や発症間隔が短い等）や感染拡大の状況を踏まえ、医療機関や高齢者施設など、特に重症化リスクが高い方々が入院・入所している施設における感染事例に重点化することが必要。あわせて、少しでも体調が悪い場合には職場・学校を休める環境を確保することも重要。

【ワクチン未接種者、3回目接種者への情報提供の再強化】

- 3回目接種率について、65歳以上高齢者では8割を、全体では4割を超えたが、高齢者を中心とする重症者・死亡者を最小限にするため、また同時に、感染状況を減少傾向へと向かわせることも期待して、高齢者及び65歳未満の対象者への3回目の接種を着実に実施し、希望する方にはできるだけ多く接種いただくことが求められている。また、3月25日より、12～17歳も特例臨時接種として実施される3回目接種の対象となった。
- 自治体では、ワクチン接種に関する情報提供を進めることが重要。未接種者へのワクチン接種とともに、初回接種から6か月以降の3回目接種によりオミクロン株に対してもワクチンの有効性が回復することから、3回目接種を着実に実施していくことも必要。また、ワクチン接種者においては新型コロナウイルス感染症の後遺症のリスクが低いとの報告がある。
- 5歳から11歳までの子どもへのワクチン接種については、特例臨時接種として実施されているが、その際、努力義務の規定はこれらの小児について適用しないことを踏まえ、接種を進めていくことが必要。また、小児への感染予防を期待して、保護者や周囲の大人がワクチンを接種することも重要。

【水際対策】3月からの入国者の待期期間の緩和などの措置の実施とともに、引き続き、海外及び国内の流行状況なども踏まえて水際対策の段階的な見直しを検証していく必要がある。特に、直近の東アジア地域における流行状況には注視が必要。また、入国時検査での陽性者は、海外における流行株監視のため、全ゲノム解析を継続させることが必要。

・オミクロン株の特徴を踏まえた感染防止策の強化・徹底

感染が広がっている場面・場所において、オミクロン株の特徴を踏まえた感染防止策の強化・徹底が求められる。

- ▶ 学校・幼稚園・保育所等においては、子どもの感染対策の徹底はもとより、教職員や保育士などに対する積極的なワクチンの接種促進も含め感染対策の徹底が必要。子どもや職員が少しでも体調が悪い場合は、休暇を取得できる環境を確保することが重要。また、分散登校やリモート授業などの組み合わせによる教育機会の確保や社会機能維持にも配慮する必要がある。あわせて、家庭内での感染対策の徹底も求められる。春休み期には、学習塾、習い事等における感染対策の徹底が必要。
- ▶ 高齢者の感染を抑制するため、介護福祉施設における対策の徹底が必要。このため、入所者及び従事者に対するワクチンの3回目接種を進めるとともに、従業者等へは積極的な検査を実施することも必要。また、施設等における感染管理や医療に関して外部から早期に迅速な支援が重要。
- ▶ 職場においては、社会機能維持のため、業務継続計画の活用に加え、企業におけるテレワークの活用や休暇取得の促進等により、出勤者数の削減に取り組むとともに、接触機会を低減することが求められる。また、従業員の体調管理を徹底し、少しでも体調が悪い場合には休暇を取得できる環境を確保することが必要であることに加え、職域におけるワクチンの3回目接種を積極的に進めるべきである。

・現在の感染状況を市民や事業者の皆様と広く共有して、感染拡大防止に協力していただくことが不可欠

- ▶ 現在の新規感染者数は昨年夏のピークよりも高い状況が続いている。今後も感染の増加要因と抑制要因が続くことにより、リバウンドの可能性も懸念される。したがって、しばらくの間は、平時への移行期間であるとの認識に立ち、最大限の警戒をしつつ、基本的な感染対策を徹底して呼びかけた上で、できるだけ感染者数の減少を継続させるとともに、新規感染者数のリバウンドが起らないよう、引き続き、市民や事業者の方々には感染リスクの低減に向けた取組にご協力いただくことが必要。
- ▶ 行政・事業者・市民の皆様には、オミクロン株においても基本的な感染防止策は有効であることから、不織布マスクの正しい着用、手指衛生、換気などの徹底を継続していただくことが必要。また、三つの密(密集、密閉、密接)が重なるところは最も感染リスクが高いが、オミクロン株は伝播性が高いため、一つの密であってもできるだけ避けることが必要。さらに、個人の重症化予防・発症予防だけではなく、周囲の人々への感染を防ぐ効果を期待して、ワクチンの3回目接種を受けていただくことが重要。
- ▶ 外出の際は、混雑した場所や換気が悪く大人数・大声を出すような感染リスクの高い場面・場所を避けることが必要。行動はいつも会う人と少人数で。飲食は、できるだけ少人数で黙食を基本とし、飲食時以外はマスクの着用を徹底することが必要。
- ▶ ご自身やご家族の命を守るため、同時にオミクロン株による感染拡大防止のためにも、軽度の発熱、倦怠感など少しでも体調が悪ければ外出を控えるとともに、自治体等の方針に従って受診や検査をすることが必要。
- ▶ これから新年度を迎えると、春休み・お花見・入学式等の多くの人が集まる機会が増える。これまでこのような機会をきっかけに感染が拡大したことから、今後のリバウンドを防ぐためにも感染防止策の徹底が必要。また、年度初めに関しては、入社や入学の際に人の移動・研修を伴うことが多いため、特に注意が必要。

《参考:オミクロン株の特徴に関する知見》

- 【感染性・伝播性】オミクロン株はデルタ株に比べ、世代時間が約2日(デルタ株は約5日)に短縮、倍加時間と潜伏期間も短縮し、感染後の再感染リスクや二次感染リスクが高く、感染拡大の速度も非常に速いことが確認されている。なお、報告されているデータによれば、これまでの株と同様に発症前の伝播は一定程度起きていると考えられる。
- 【感染の場・感染経路】国内では、多くの感染がこれまでと同様の機会(換気が不十分な屋内や飲食の機会等)で起きており、感染経路もこれまでと同様、飛沫が粘膜に付着することやエアロゾルの吸入、接触感染等を介していると考えられている。
- 【重症度】オミクロン株による感染はデルタ株に比べて相対的に入院のリスク、重症化のリスクが低い可能性が示されているが、現時点で分析されたオミクロン株による感染の致命率は、季節性インフルエンザの致命率よりも高いと考えられる。また、肺炎の発症率についても限られたデータではあるが季節性インフルエンザよりも高いことが示唆されているが、今後もさまざまな分析による検討が必要。今回の感染拡大における死亡者は、昨年夏の感染拡大と比べ、80歳以上の占める割合が高くなっている。感染前の状況として、医療機関に入院中の方や高齢者施設に入所中の方が多いことが示された。侵襲性の高い治療を希望されない場合や基礎疾患の悪化等の影響で重症の定義を満たさずに死亡する方など、新型コロナウイルス感染症が直接の死因でない事例も少なくないことが報告されており、基礎疾患を有する陽性者でコロナ感染による肺炎が見られなくても感染により基礎疾患が増悪することや、高齢の感染者が心不全や誤嚥性肺炎等を発症することにより、入院を要する感染者の増加に繋がることにも注意が必要。
- 【ウイルスの排出期間】オミクロン株感染症例におけるウイルスの排出については、時間の経過とともに減少する。有症状者では、発症日から10日目以降において、排出する可能性が低くなることが示された。なお、無症状者では、診断日から8日目以降において排出していないことが示された。
- 【ワクチン効果】初回免疫によるオミクロン株感染に対する発症予防効果は著しく低下する。入院予防効果については、半年間は一定程度保たれているものの、その後50%以下に低下することが報告されている。一方で、3回目接種によりオミクロン株感染に対する感染予防効果、発症予防効果や入院予防効果が回復することや、3回目接種後のワクチン効果の減衰についても海外から報告されている。海外では一部の国で4回目接種が始まっている。有効性・安全性の情報を収集し、国内での4回目接種の必要性や対象者、開始時期などについて検討する必要がある。
- 【BA.2系統】海外の一部地域ではBA.2系統による感染が拡大している。国内におけるオミクロン株は、当初BA.1とBA.1.1の海外からの流入がともにあったものの、その後BA.1.1が多数を占めるに至り、現在も主流となっているが、BA.2系統も検疫や国内で検出されており、現在、BA.2系統への置き換わりが進んでいる。このため、今後、感染者数の増加(減少)速度に影響を与える可能性がある。なお、BA.2系統はBA.1系統との比較において、実効再生産数及び二次感染リスク等の分析から、感染性がより高いことが示されている。BA.2系統の世代時間は、BA.1系統と比べ15%短く、実効再生産数は26%高いことが示された。BA.1系統とBA.2系統との重症度の比較については、動物実験でBA.2系統の方が病原性が高い可能性を示唆するデータもあるが、実際の入院リスク及び重症化リスクに関する差は見られないとも報告されている。また、英国の報告では、ワクチンの予防効果にも差がないことが示されている。英国の報告では、BA.1系統ウイルス感染後におけるBA.2系統ウイルスに再感染した事例は少数あり、主にワクチン未接種者であると報告されている。

直近の感染状況等（1）

○新規感染者数の動向（対人口10万人（人））

	3/9～3/15	3/16～3/22	3/23～3/29
全国	293.16人（369,806人） ↓	231.81人（292,424人） ↓	240.00人（302,753人） ↑
北海道	211.19人（11,034人） ↓	200.40人（10,470人） ↓	213.89人（11,175人） ↑
埼玉	355.78人（26,131人） ↓	322.27人（23,670人） ↓	324.75人（23,852人） ↑
千葉	345.57人（21,717人） ↓	280.09人（17,602人） ↓	264.97人（16,652人） ↓
東京	422.38人（59,334人） ↓	340.56人（47,841人） ↓	357.84人（50,268人） ↑
神奈川	422.84人（39,059人） ↓	321.68人（29,715人） ↓	276.82人（25,571人） ↓
愛知	287.60人（21,692人） ↓	207.03人（15,615人） ↓	238.61人（17,997人） ↑
京都	296.96人（7,656人） ↓	217.22人（5,600人） ↓	214.54人（5,531人） ↓
大阪	410.56人（36,284人） ↓	269.26人（23,796人） ↓	290.59人（25,681人） ↑
兵庫	329.64人（18,015人） ↓	233.27人（12,748人） ↓	240.37人（13,136人） ↑
福岡	323.90人（16,633人） ↓	248.97人（12,785人） ↓	268.34人（13,780人） ↑
沖縄	290.36人（4,261人） ↓	290.84人（4,268人） ↓	394.01人（5,782人） ↑

○検査体制の動向（検査数、陽性者割合）

	2/28～3/6	3/7～3/13	3/14～3/20
全国	997,494件 ↑ 44.2% ↓	934,040件 ↓ 40.4% ↓	877,259件 ↓ 37.4% ↓
北海道	38,279件 ↓ 33.7% ↓	38,957件 ↑ 28.8% ↓	34,949件 ↓ 30.9% ↑
埼玉	73,909件 ↑ 41.7% ↓	69,076件 ↓ 38.7% ↓	59,555件 ↓ 41.1% ↑
千葉	37,241件 ↑ 66.7% ↓	33,640件 ↓ 65.5% ↓	30,023件 ↓ 65.7% ↑
東京	198,587件 ↑ 38.8% ↓	164,879件 ↓ 37.0% ↓	173,440件 ↑ 30.6% ↓
神奈川	41,699件 ↑ 105.4% ↓	37,051件 ↓ 104.1% ↓	33,693件 ↓ 101.8% ↓
愛知	32,591件 ↑ 90.5% ↓	27,128件 ↓ 86.3% ↓	25,307件 ↓ 72.8% ↓
京都	20,592件 ↑ 46.6% ↓	17,137件 ↓ 45.7% ↓	15,813件 ↓ 40.3% ↓
大阪	103,093件 ↑ 48.3% ↓	90,849件 ↓ 41.1% ↓	87,870件 ↓ 32.6% ↓
兵庫	28,897件 ↑ 79.5% ↓	27,027件 ↓ 70.2% ↓	23,352件 ↓ 62.9% ↓
福岡	39,028件 ↓ 49.3% ↓	36,010件 ↓ 47.4% ↓	35,687件 ↓ 40.5% ↓
沖縄	25,459件 ↑ 22.4% ↓	15,457件 ↓ 29.3% ↑	26,963件 ↑ 16.6% ↓

※ ↑は前週と比べ増加、↓は減少、→は同水準を意味する。

※ 「陽性者割合」は、分子の「各都道府県の発表日ベースの新規陽性者数（疑似症患者を含む）」に対し、「PCR検査件数（退院時検査等を含む）」を分母として機械的に算出。
また、PCR検査件数報告の遅れ等の影響により100%を超える場合があり、他の都道府県についても結果の解釈には留意が必要。

直近の感染状況等（2）

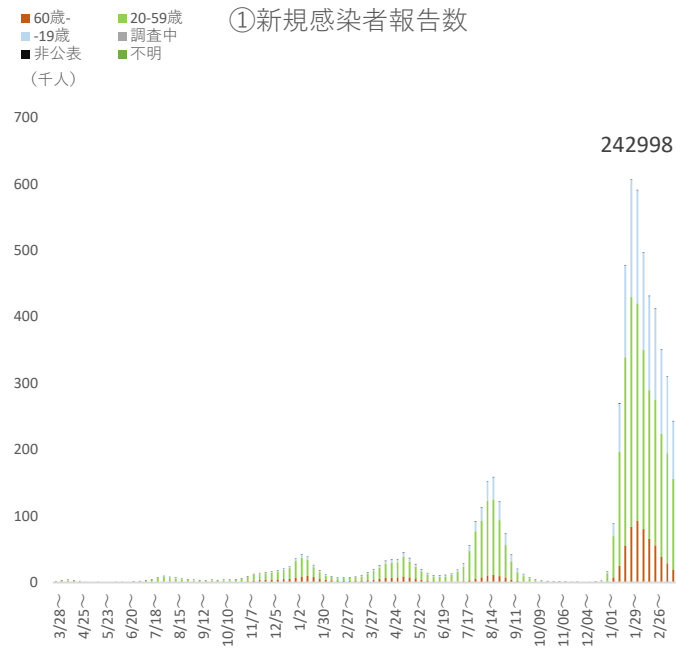
○入院患者数の動向（入院者数(対受入確保病床数)）

○重症者数の動向（入院者数(対受入確保病床数)）

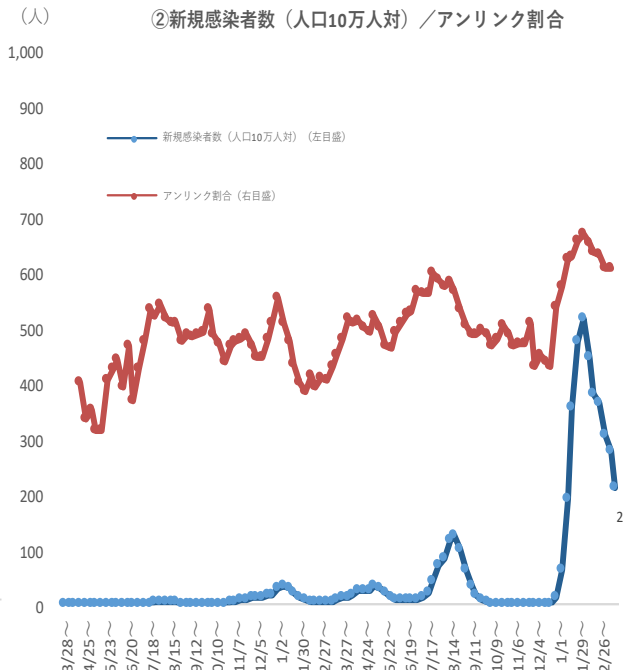
	3/9			3/16			3/23			3/9			3/16			3/23		
	人数	割合	動向	人数	割合	動向	人数	割合	動向	人数	割合	動向	人数	割合	動向	人数	割合	動向
全国	20,533人	(45.8%)	↓	17,273人	(38.5%)	↓	14,503人	(33.0%)	↓	1,794人	(30.2%)	↓	1,528人	(25.8%)	↓	1,150人	(19.7%)	↓
北海道	725人	(34.9%)	↓	539人	(25.8%)	↓	427人	(20.0%)	↓	8人	(6.0%)	↓	4人	(3.0%)	↓	5人	(3.7%)	↑
埼玉	1,146人	(52.0%)	↓	1,044人	(47.3%)	↓	932人	(49.0%)	↓	44人	(18.4%)	↓	46人	(19.2%)	↑	26人	(13.3%)	↓
千葉	1,022人	(57.5%)	↓	762人	(43.0%)	↓	652人	(36.7%)	↓	20人	(16.1%)	↓	20人	(16.1%)	→	18人	(14.1%)	↓
東京	3,244人	(44.9%)	↓	2,709人	(37.5%)	↓	2,169人	(30.0%)	↓	598人	(40.7%)	↓	494人	(33.7%)	↓	407人	(27.7%)	↓
神奈川	1,486人	(59.4%)	↓	1,320人	(52.8%)	↓	1,071人	(51.0%)	↓	81人	(30.0%)	↓	69人	(25.6%)	↓	55人	(26.2%)	↓
愛知	1,078人	(57.1%)	↓	940人	(49.8%)	↓	783人	(41.5%)	↓	42人	(23.0%)	→	39人	(21.3%)	↓	36人	(19.7%)	↓
京都	521人	(56.4%)	↓	402人	(43.5%)	↓	387人	(41.9%)	↓	53人	(31.0%)	↓	43人	(25.1%)	↓	25人	(14.6%)	↓
大阪	2,791人	(68.8%)	↓	2,361人	(57.7%)	↓	2,084人	(52.0%)	↓	720人	(51.1%)	↑	628人	(44.8%)	↓	440人	(31.2%)	↓
兵庫	842人	(55.1%)	↓	733人	(47.9%)	↓	546人	(35.7%)	↓	31人	(21.8%)	↓	25人	(17.6%)	↓	20人	(14.1%)	↓
福岡	804人	(49.4%)	↓	624人	(38.4%)	↓	520人	(32.0%)	↓	18人	(8.7%)	→	10人	(4.9%)	↓	11人	(5.3%)	↑
沖縄	249人	(39.6%)	↓	183人	(29.1%)	↓	161人	(25.8%)	↓	17人	(28.3%)	↓	13人	(21.7%)	↓	4人	(4.8%)	↓

※ 「入院患者数の動向」は、厚生労働省「新型コロナウイルス感染症患者の療養状況、病床数等に関する調査」による。この調査では、記載日の0時時点で調査・公表している。
 ↑は前週と比べ増加、↓は減少、→は同水準を意味する。

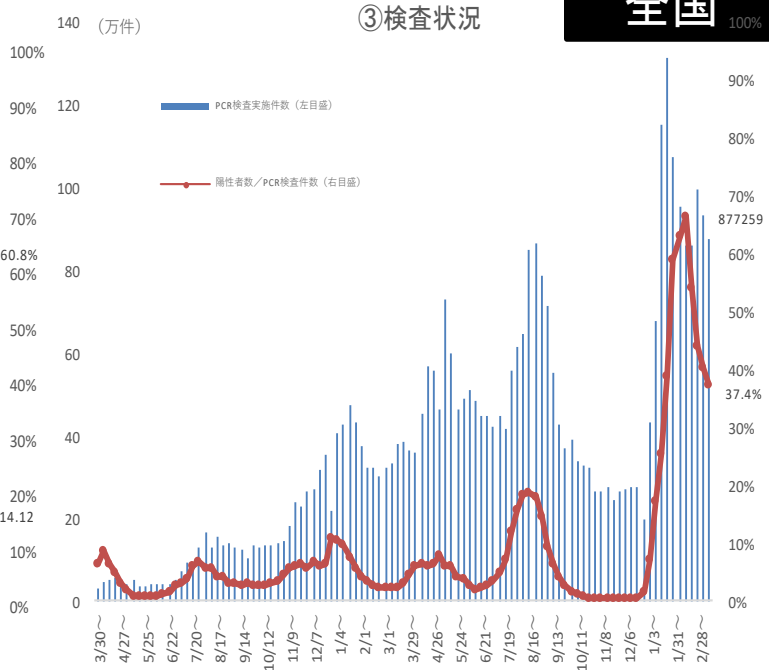
①新規感染者報告数



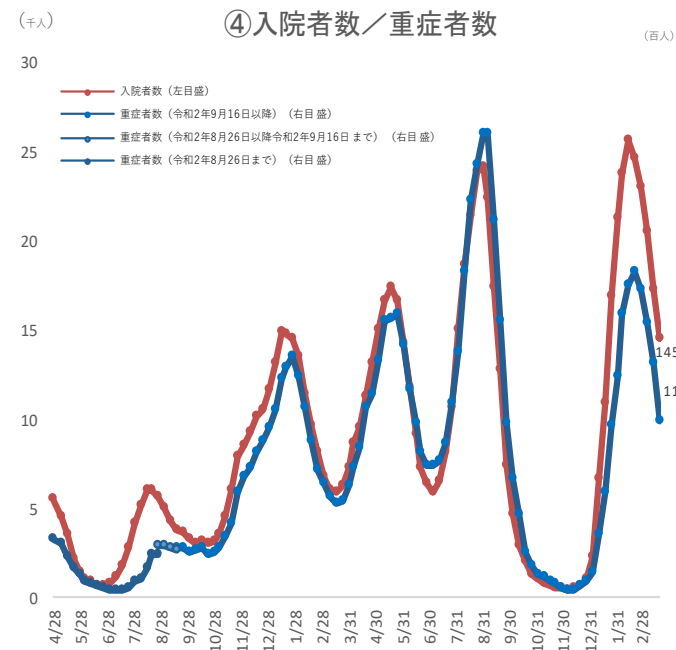
②新規感染者数 (人口10万人対) / アンリンク割合



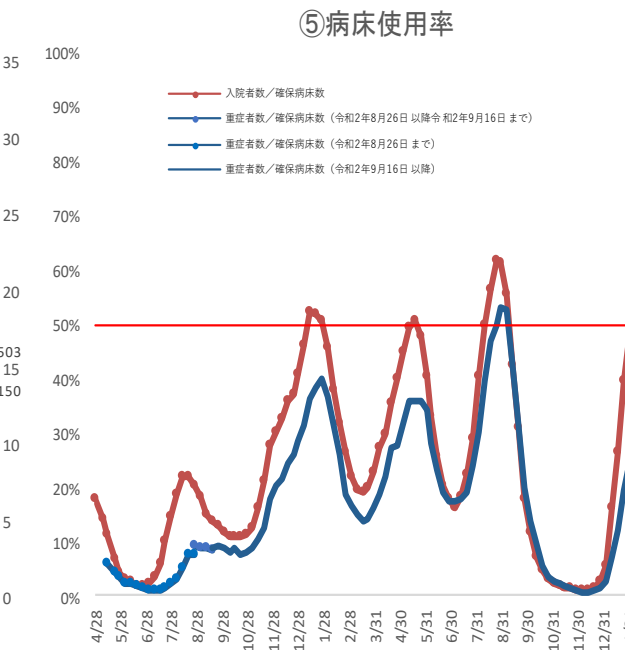
③検査状況



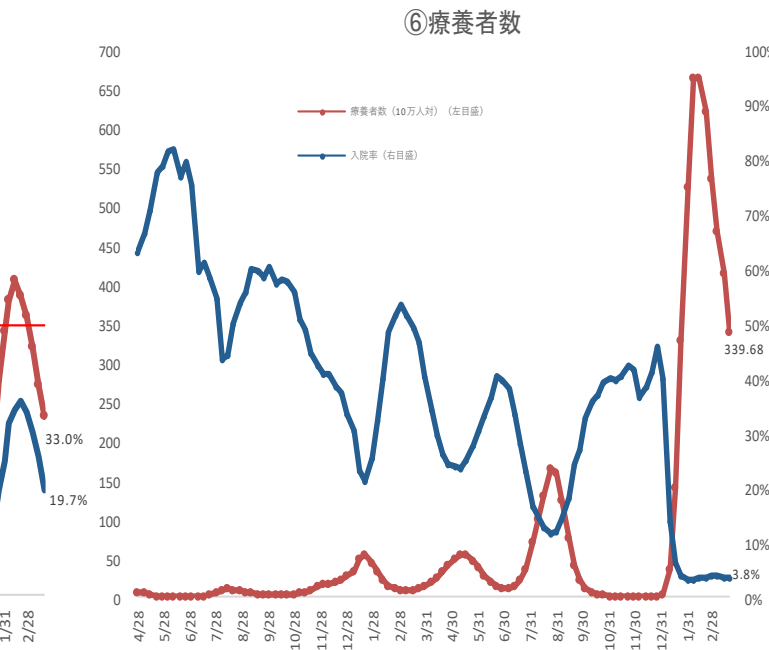
④入院者数 / 重症者数



⑤病床使用率



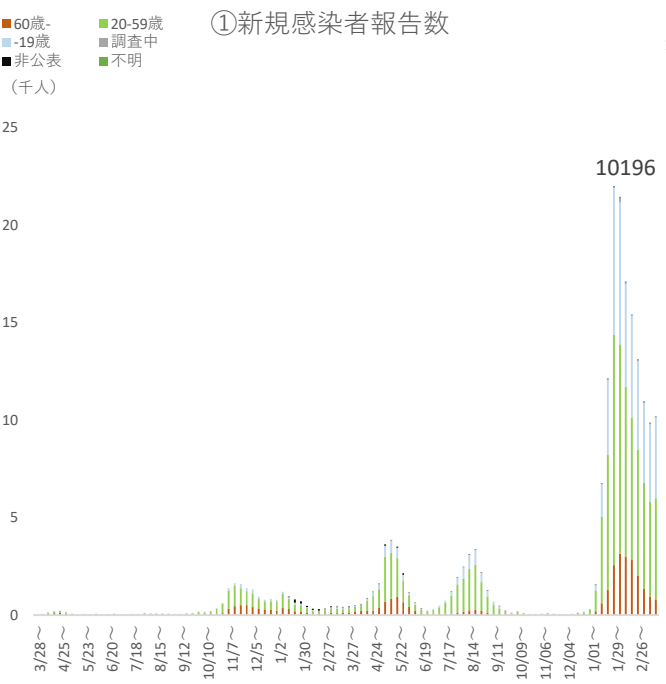
⑥療養者数



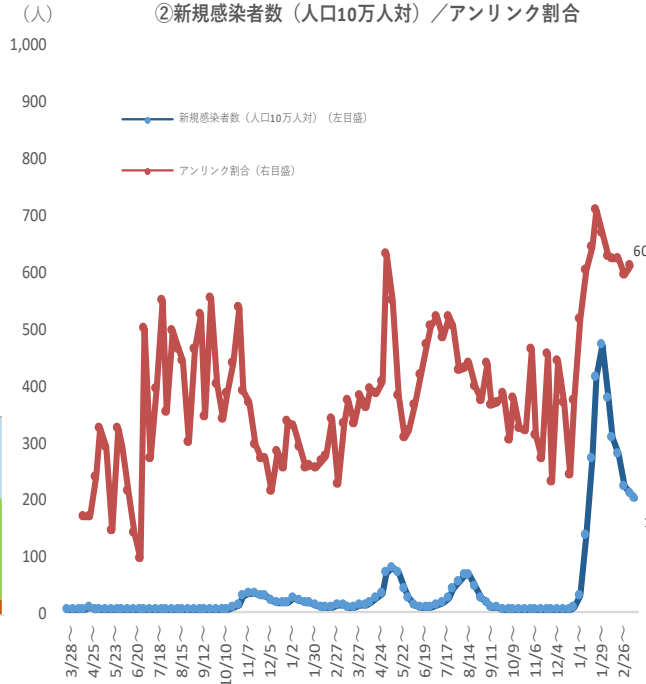
※ 人口10万対の人数は、令和3年12月4日までは総務省統計局における各年10月1日時点の人口推計の数値、令和3年12月5日からは令和2年国勢調査の数値により算出している。

(資料出所) 3月30日ADB資料

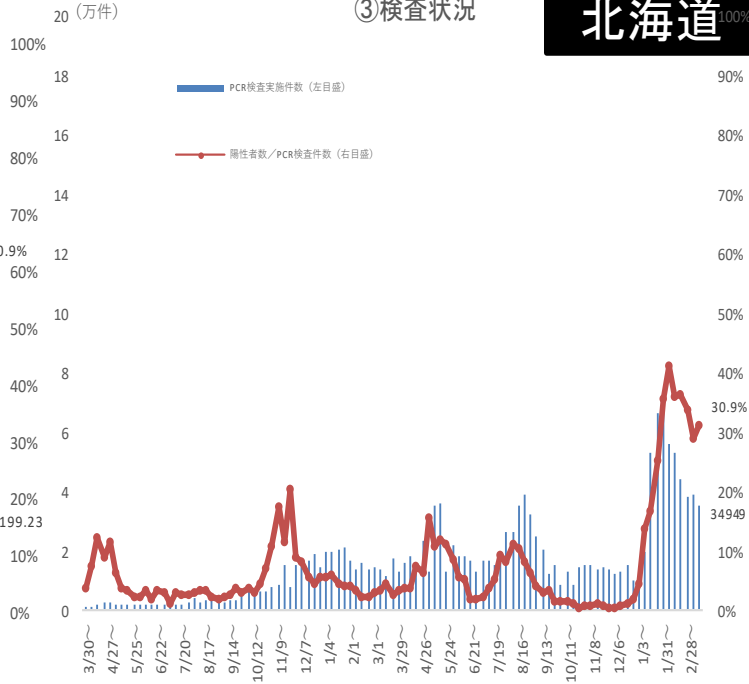
①新規感染者報告数



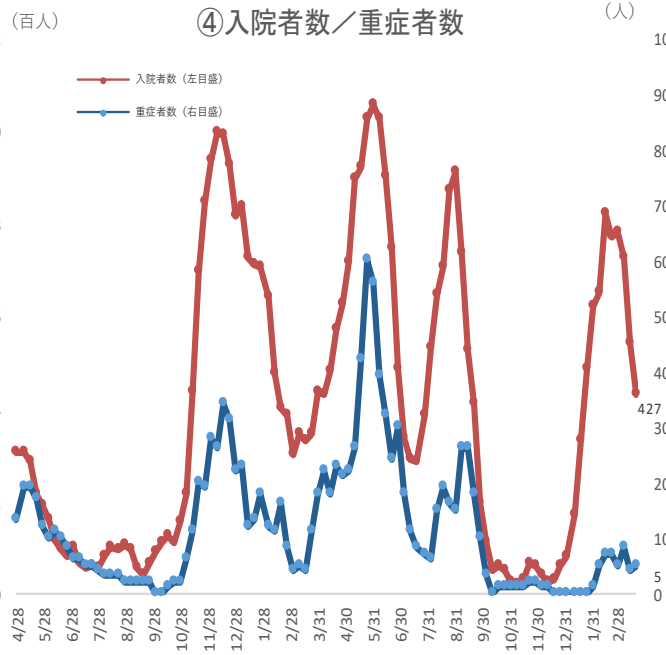
②新規感染者数(人口10万人対)／アンリンク割合



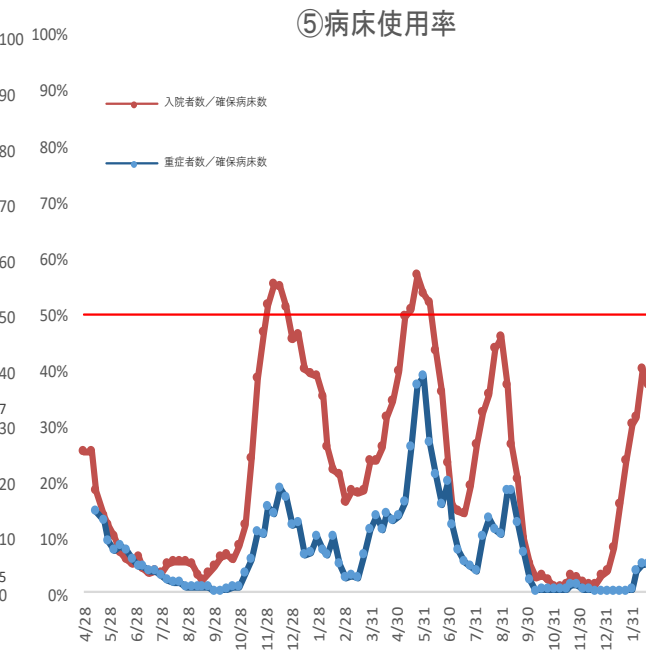
③検査状況



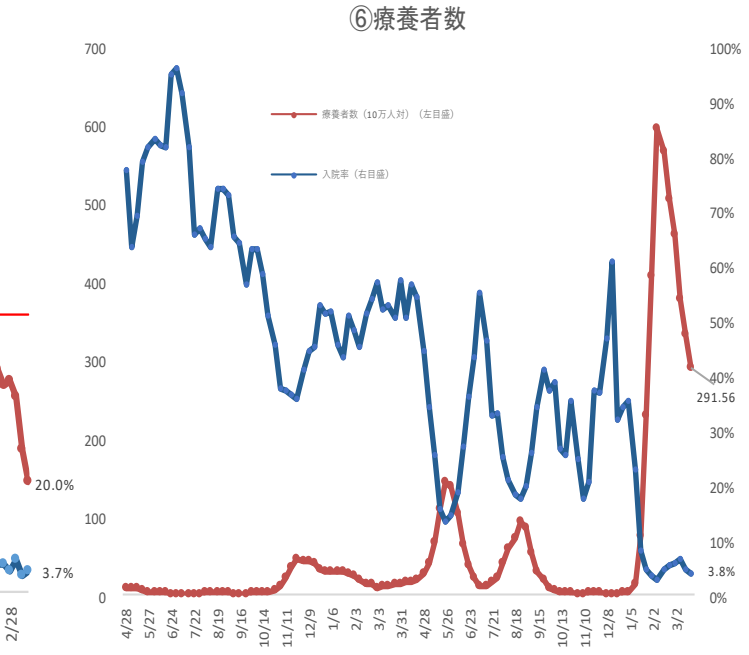
④入院者数／重症者数



⑤病床利用率



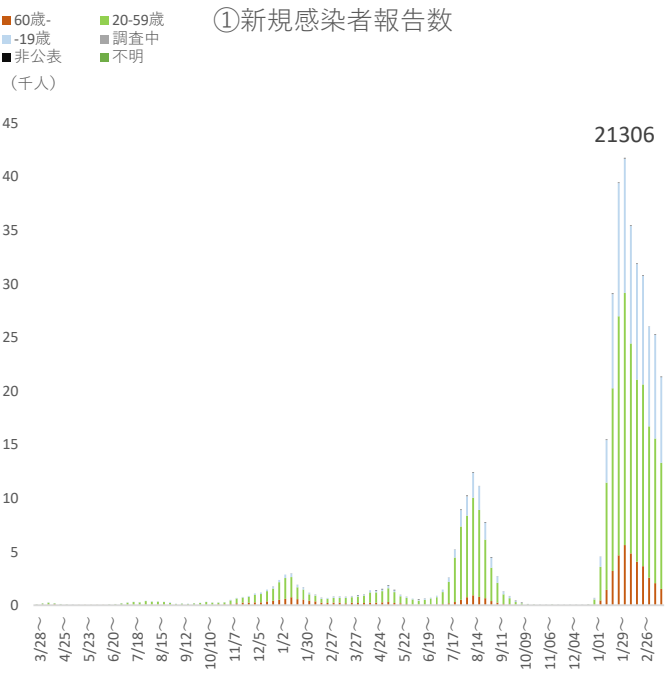
⑥療養者数



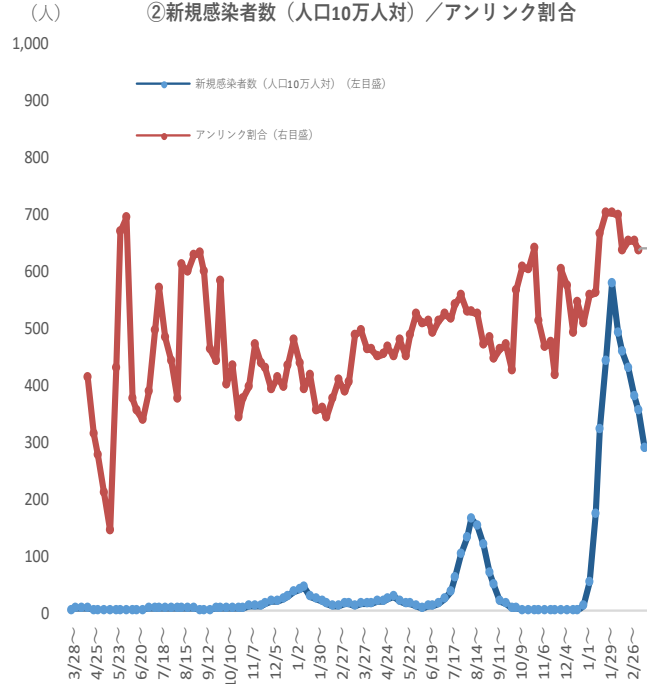
※ 人口10万対の人数は、令和3年12月4日までは総務省統計局における各年10月1日時点の人口推計の数値、令和3年12月5日からは令和2年国勢調査の数値により算出している。

(資料出所) 3月30日ADB資料

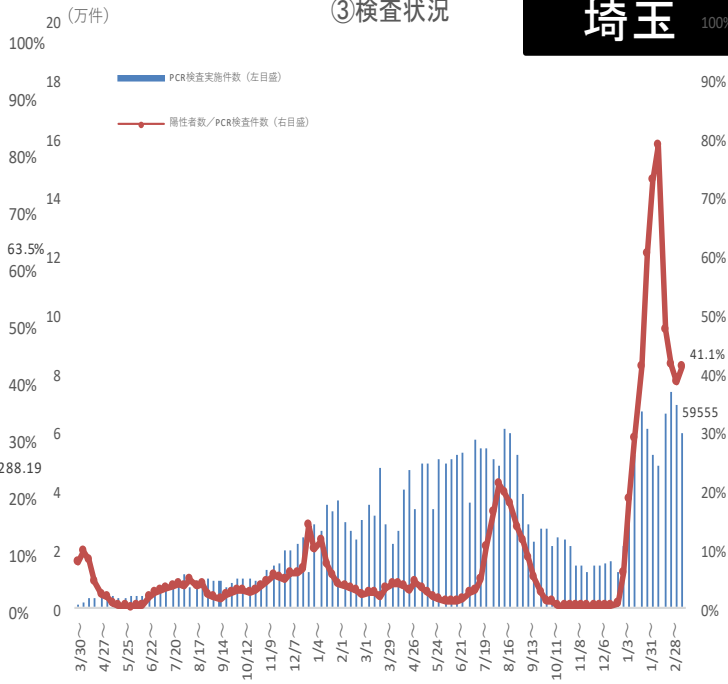
①新規感染者報告数



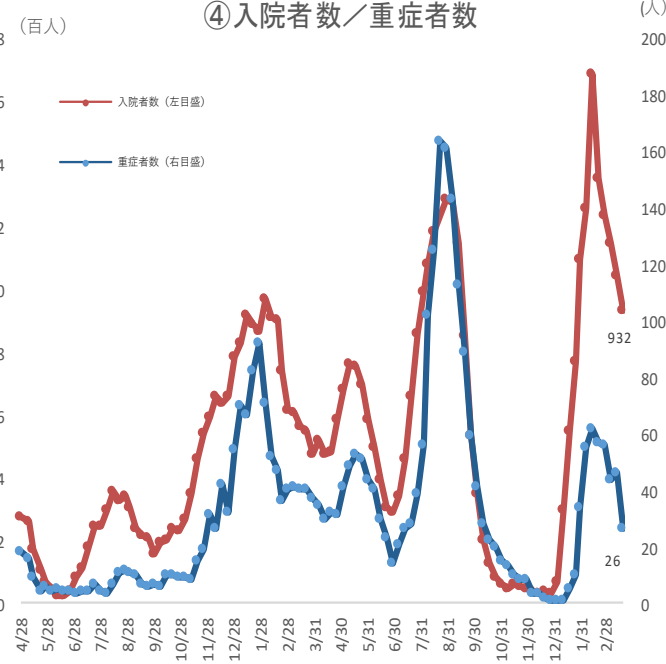
②新規感染者数（人口10万人対）／アリンク割合



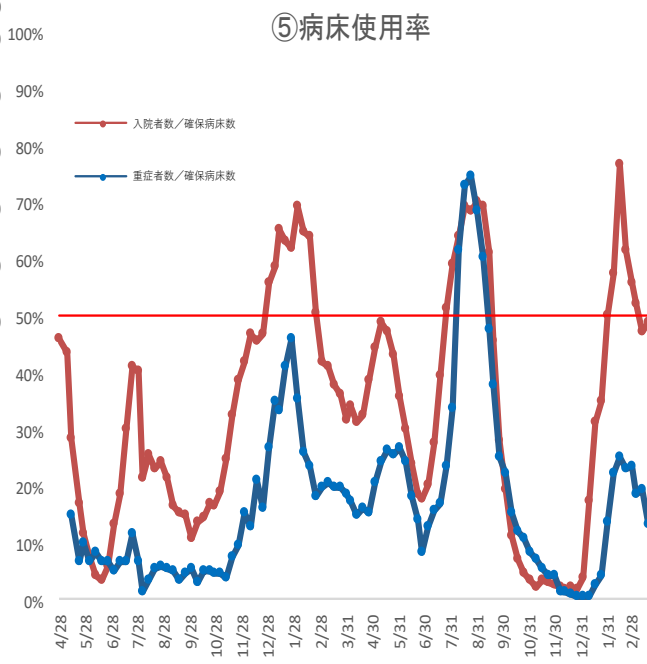
③検査状況



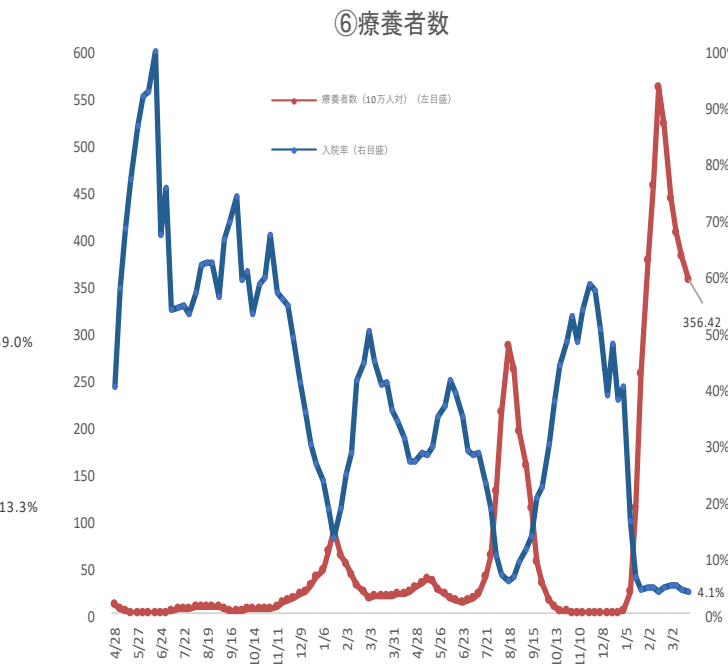
④入院者数／重症者数



⑤病床使用率

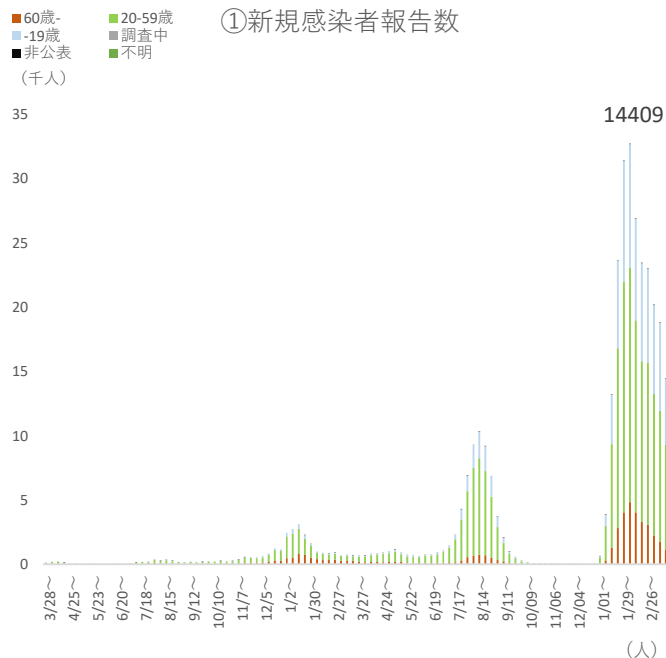


⑥療養者数

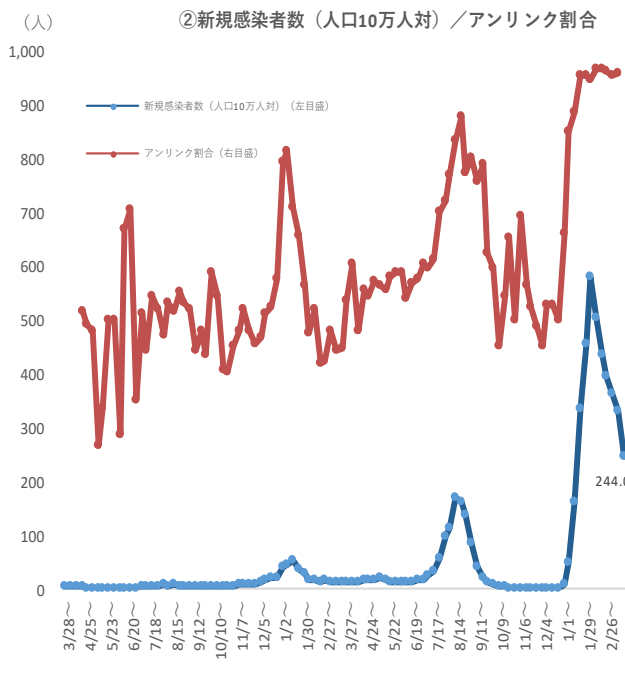


※ 人口10万対の人数は、令和3年12月4日までは総務省統計局における各年10月1日時点の人口推計の数値、令和3年12月5日からは令和2年国勢調査の数値により算出している。

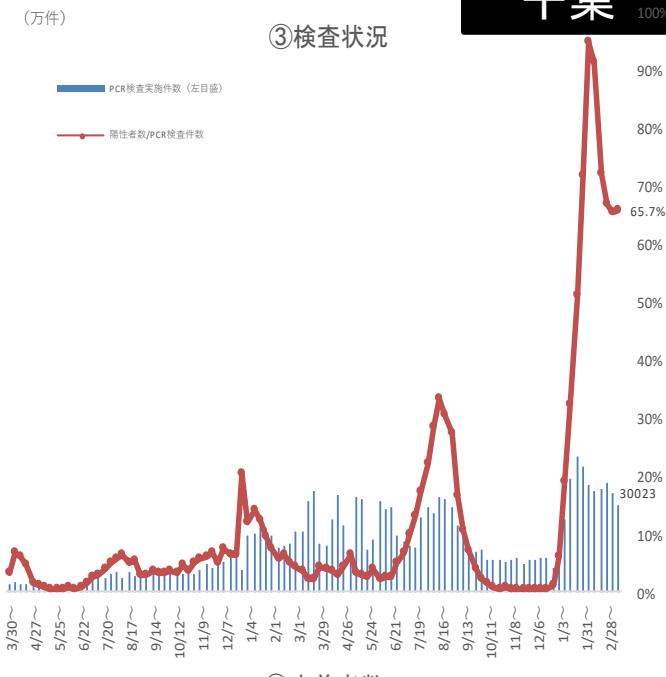
①新規感染者報告数



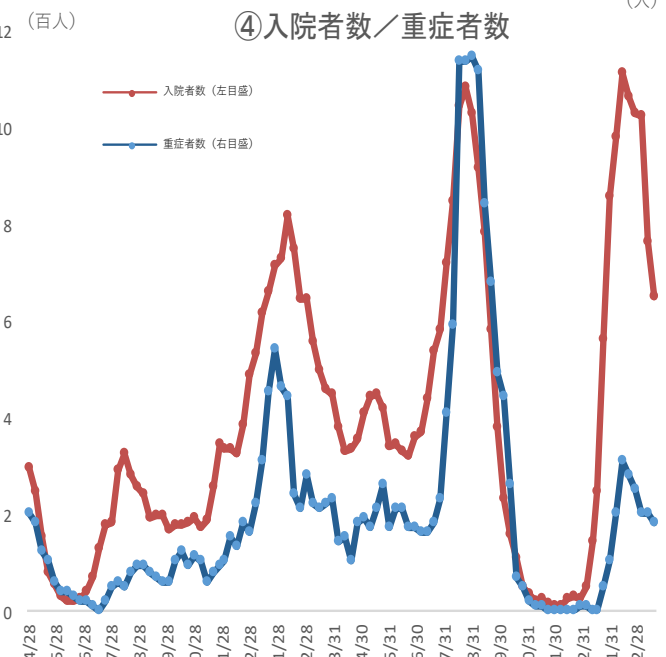
②新規感染者数(人口10万人対) / アンリンク割合



③検査状況



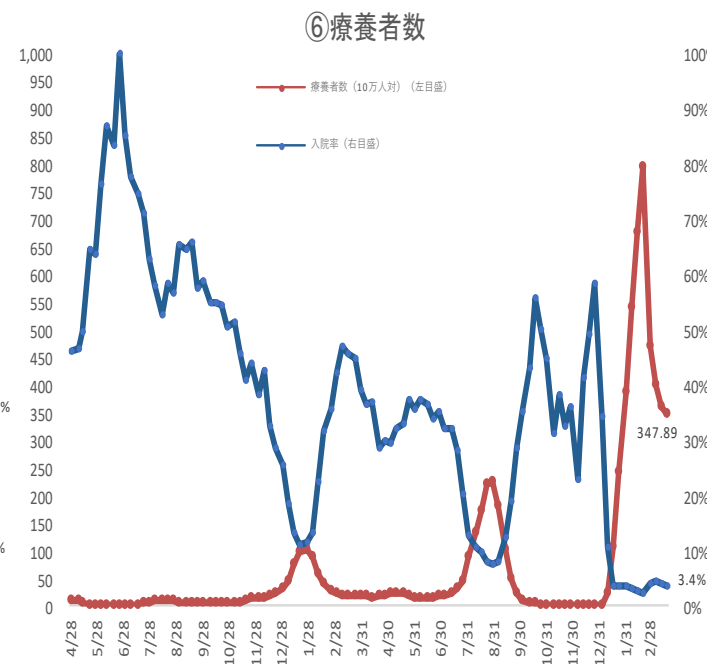
④入院者数 / 重症者数



⑤病床使用率



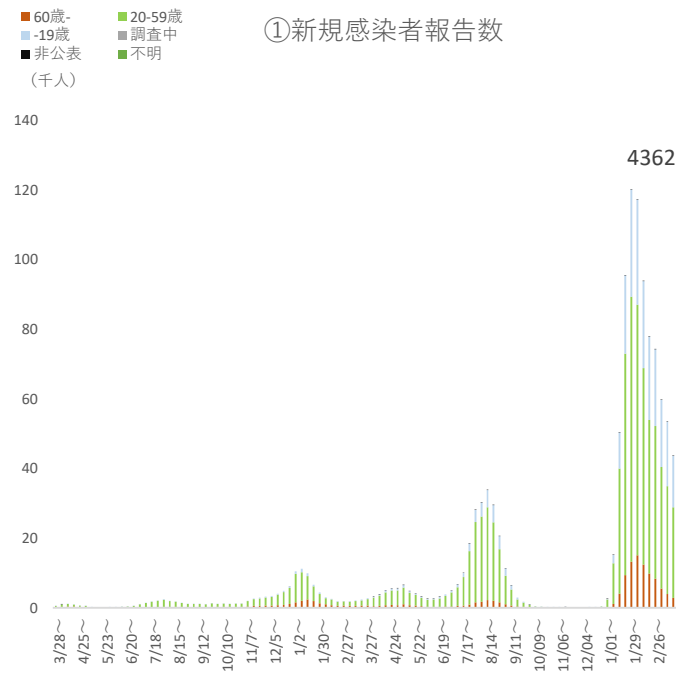
⑥療養者数



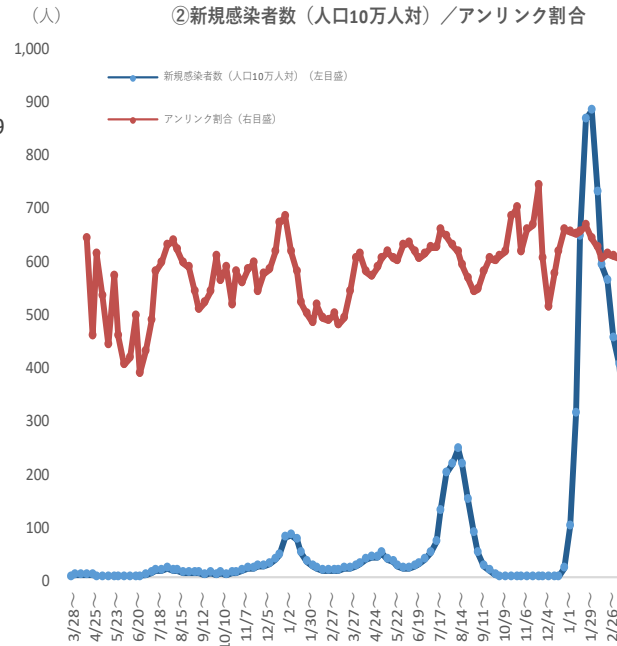
※ 人口10万対の人数は、令和3年12月4日までは総務省統計局における各年10月1日時点の人口推計の数値、令和3年12月5日からは令和2年国勢調査の数値により算出している。

(資料出所) 3月30日ADB資料

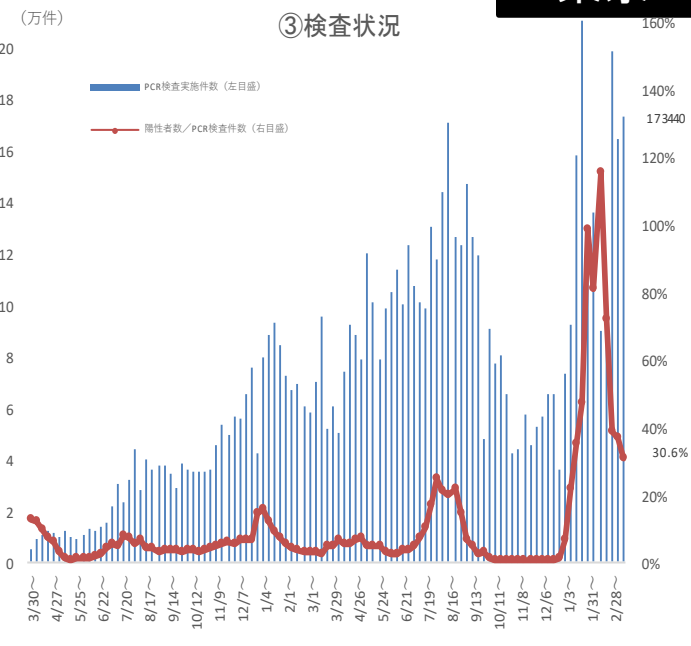
①新規感染者報告数



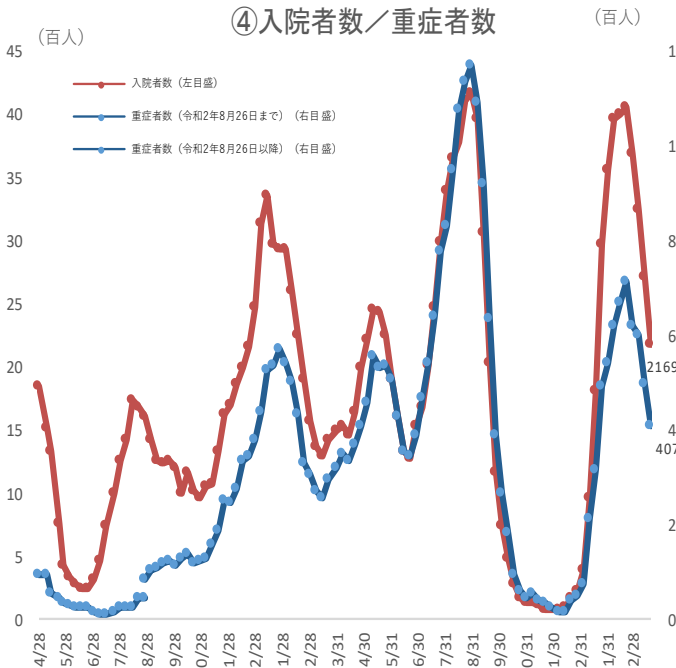
②新規感染者数（人口10万人対）／アンリンク割合



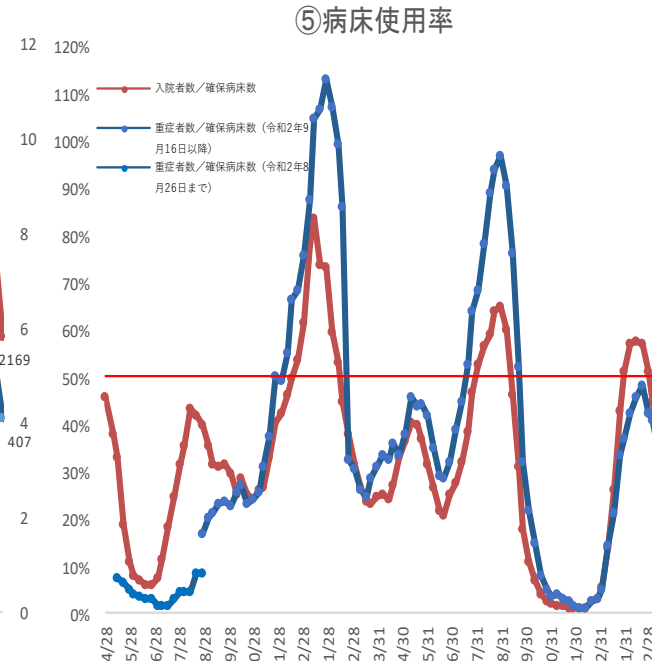
③検査状況



④入院者数／重症者数



⑤病床使用率

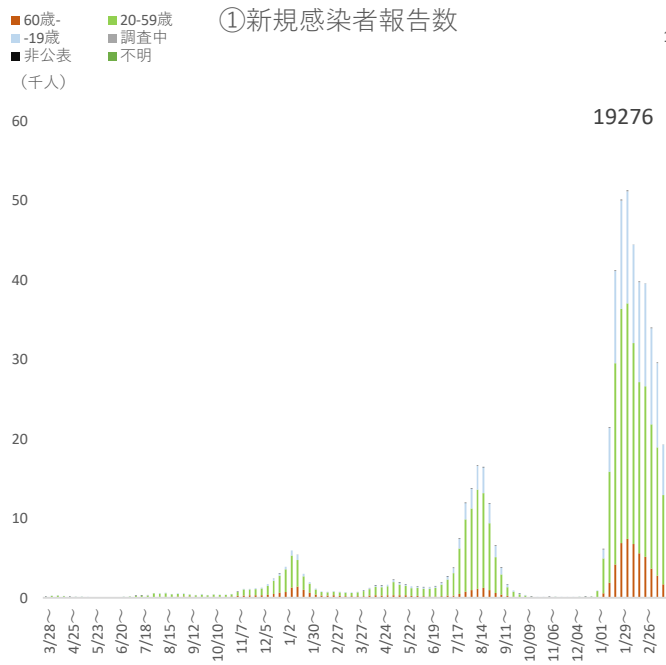


⑥療養者数

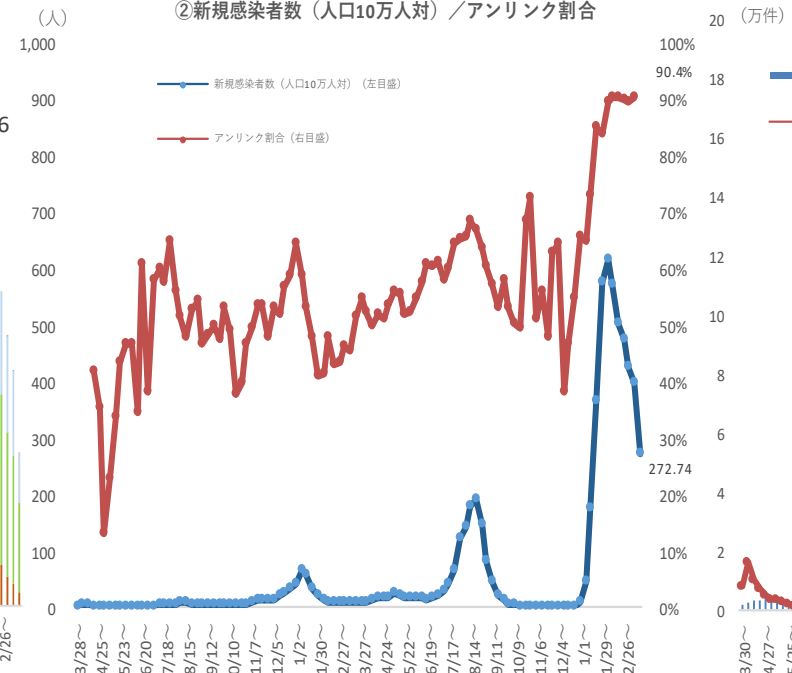


※ 人口10万対の人数は、令和3年12月4日までは総務省統計局における各年10月1日時点の人口推計の数値、令和3年12月5日からは令和2年国勢調査の数値により算出している。

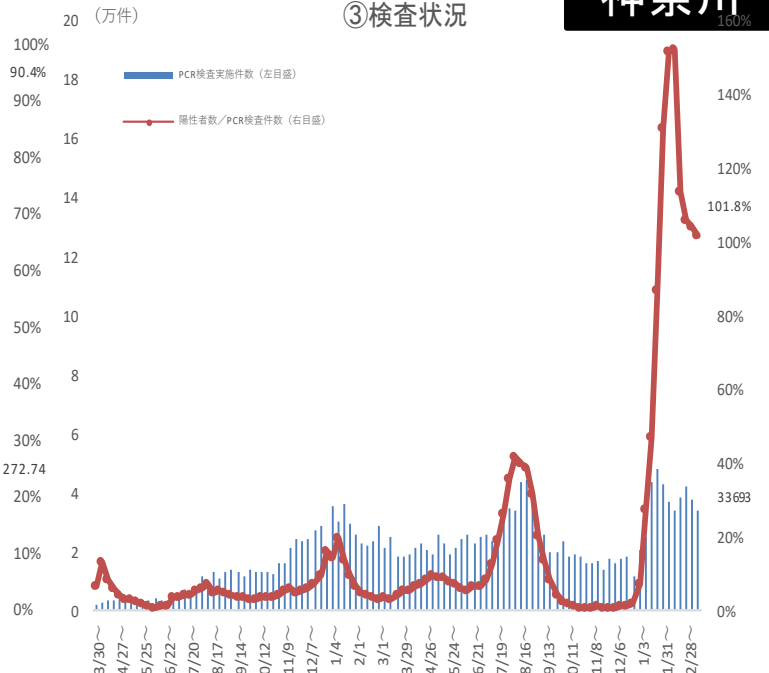
①新規感染者報告数



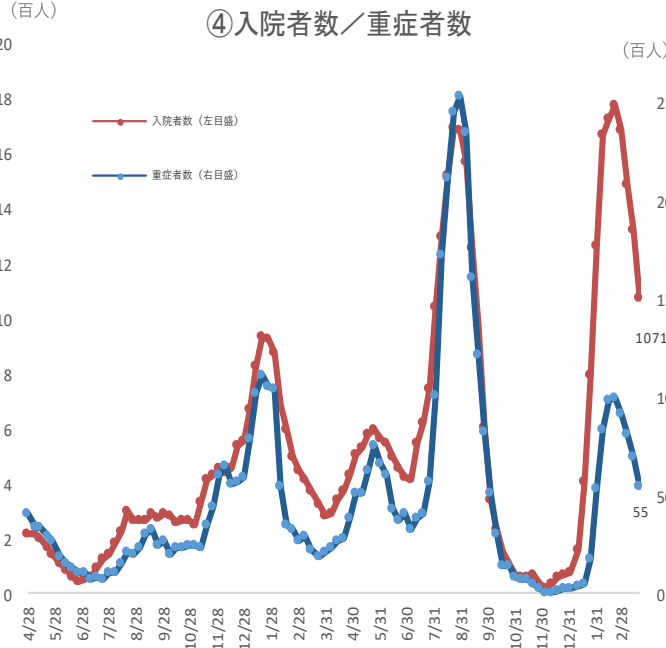
②新規感染者数(人口10万人対)／アリンク割合



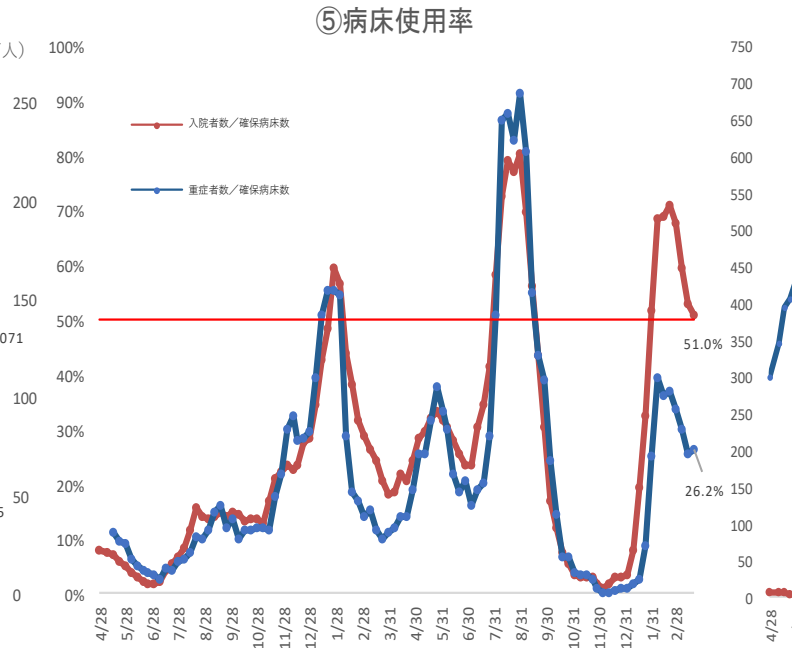
③検査状況



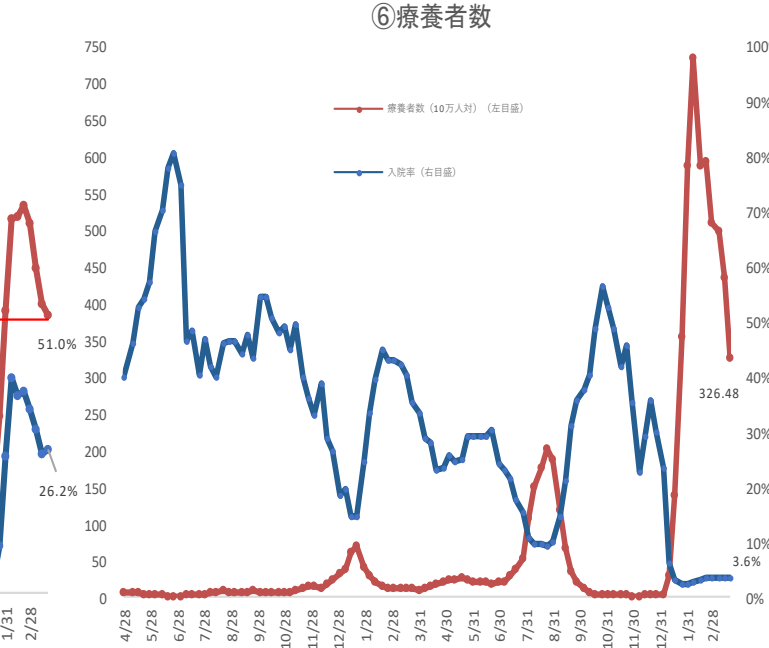
④入院者数／重症者数



⑤病床使用率



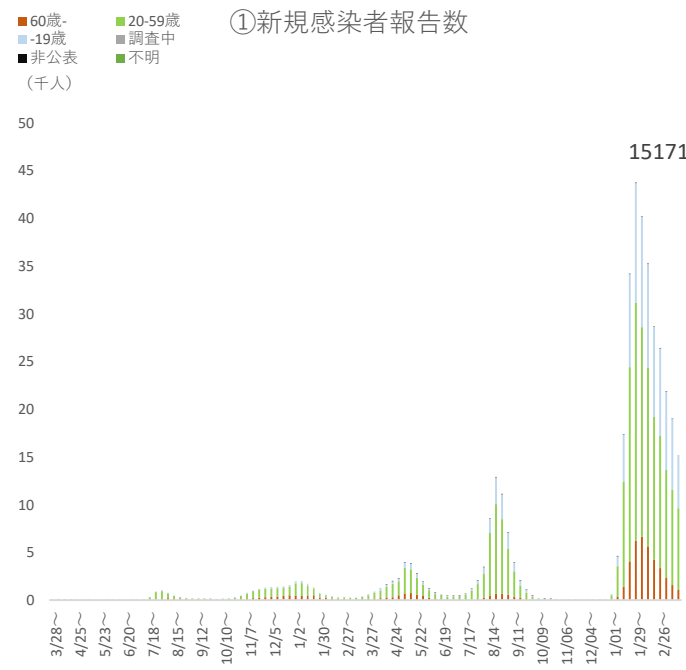
⑥療養者数



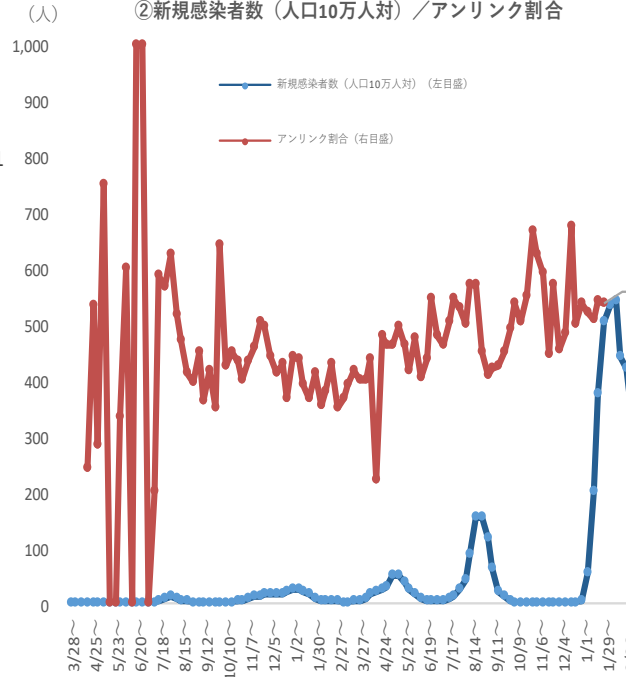
※ 人口10万対の人数は、令和3年12月4日までは総務省統計局における各年10月1日時点の人口推計の数値、令和3年12月5日からは令和2年国勢調査の数値により算出している。

(資料出所) 3月30日ADB資料

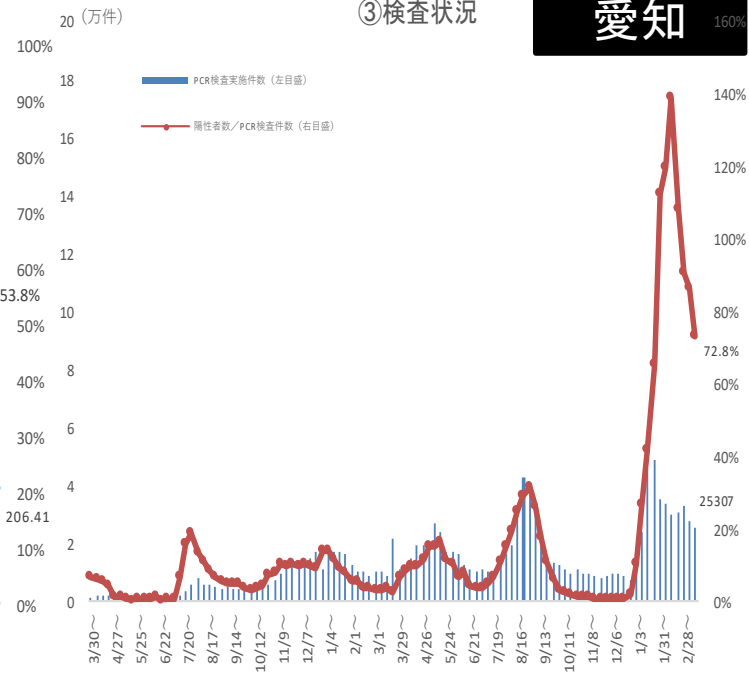
①新規感染者報告数



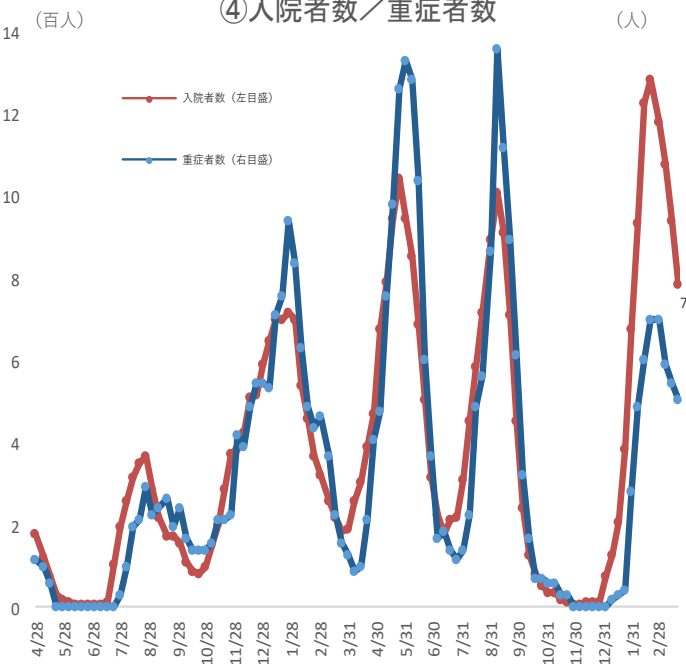
②新規感染者数 (人口10万人対) / アンリンク割合



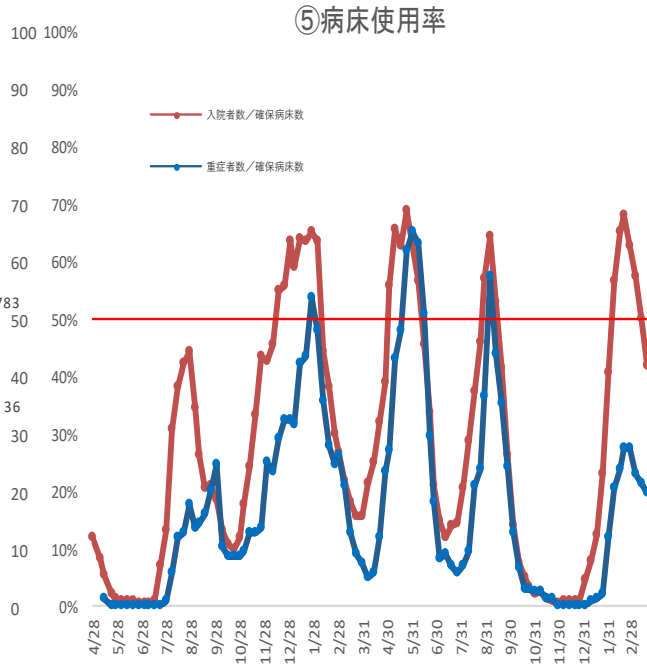
③検査状況



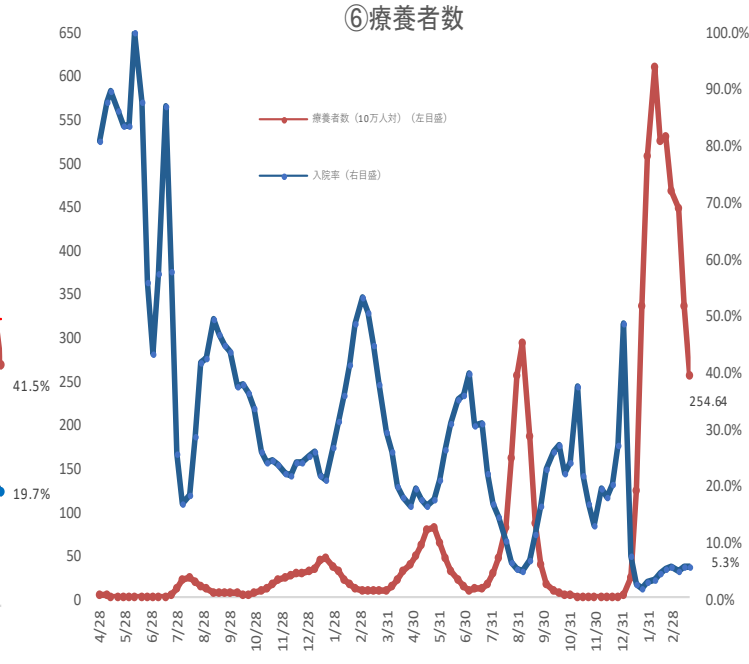
④入院者数 / 重症者数



⑤病床使用率



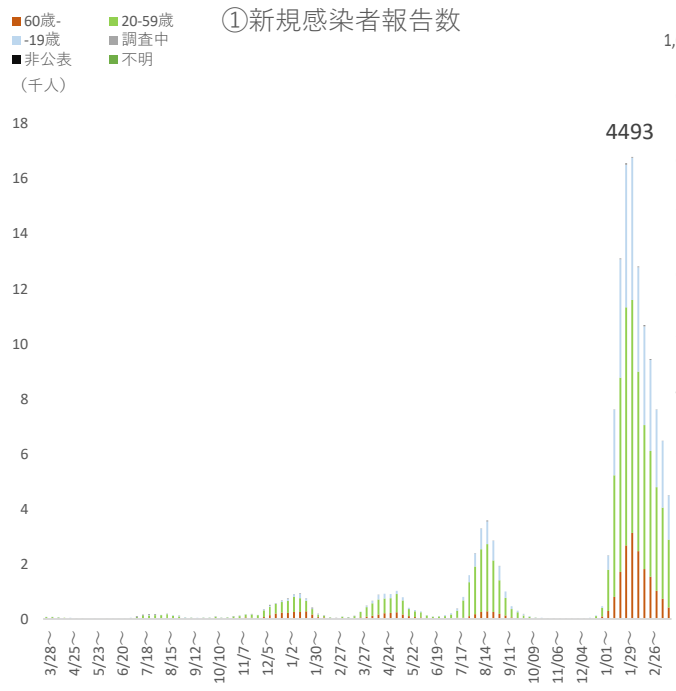
⑥療養者数



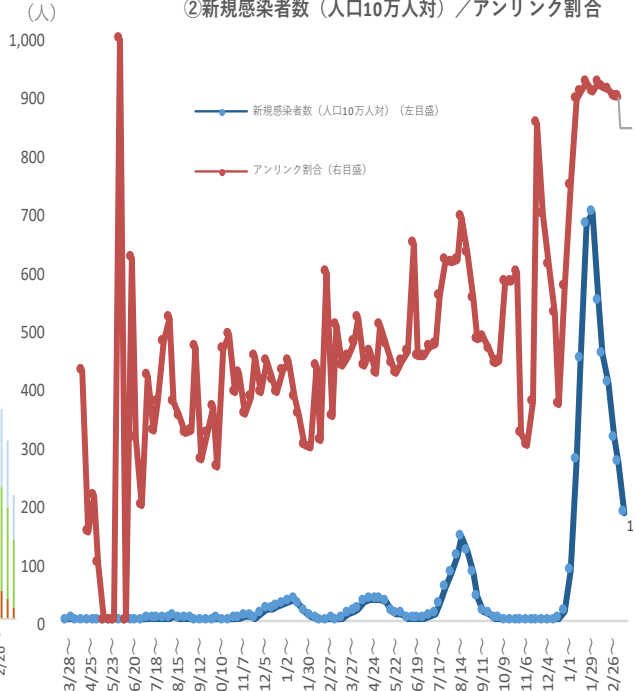
※ 人口10万対の人数は、令和3年12月4日までは総務省統計局における各年10月1日時点の人口推計の数値、令和3年12月5日からは令和2年国勢調査の数値により算出している。

(資料出所) 3月30日ADB資料

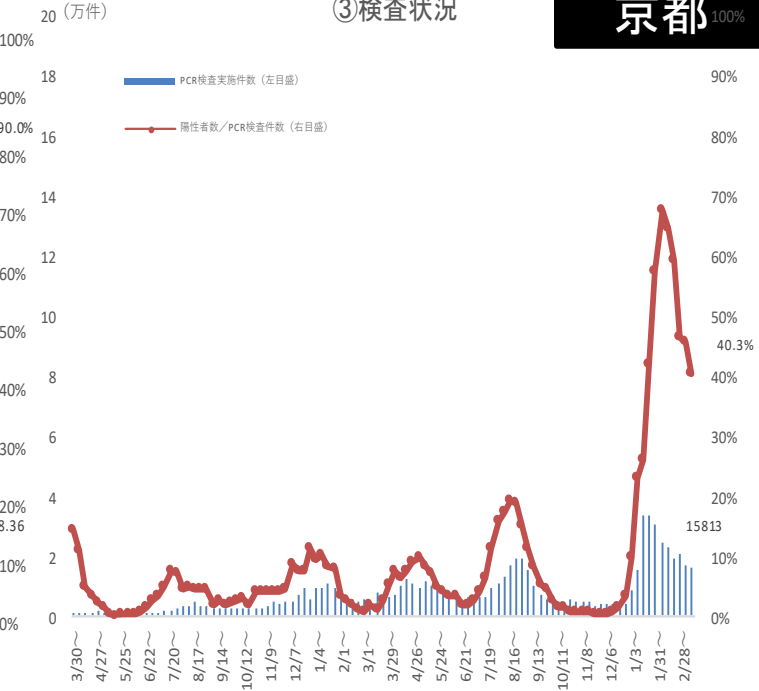
①新規感染者報告数



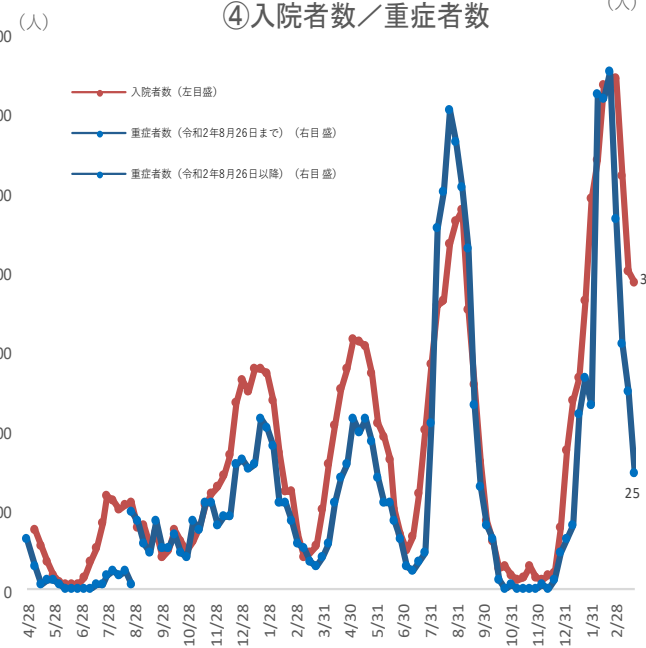
②新規感染者数(人口10万人対) / アンリンク割合



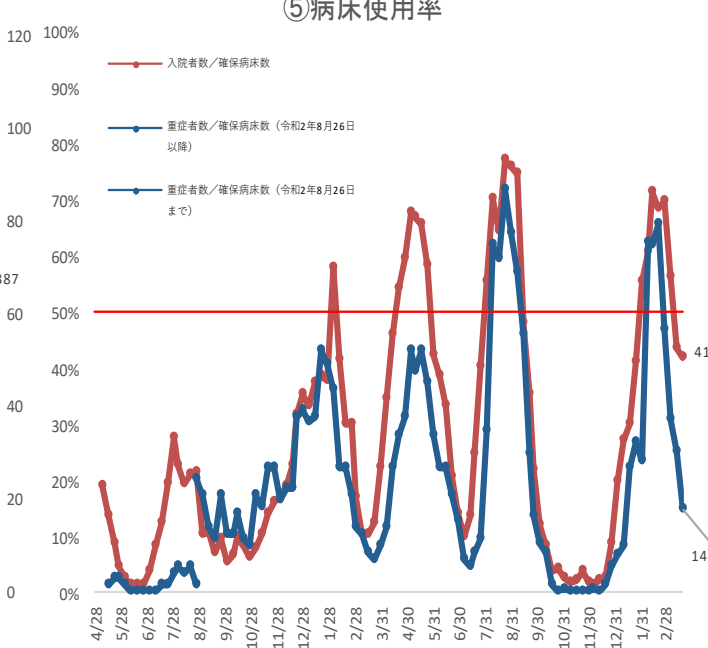
③検査状況



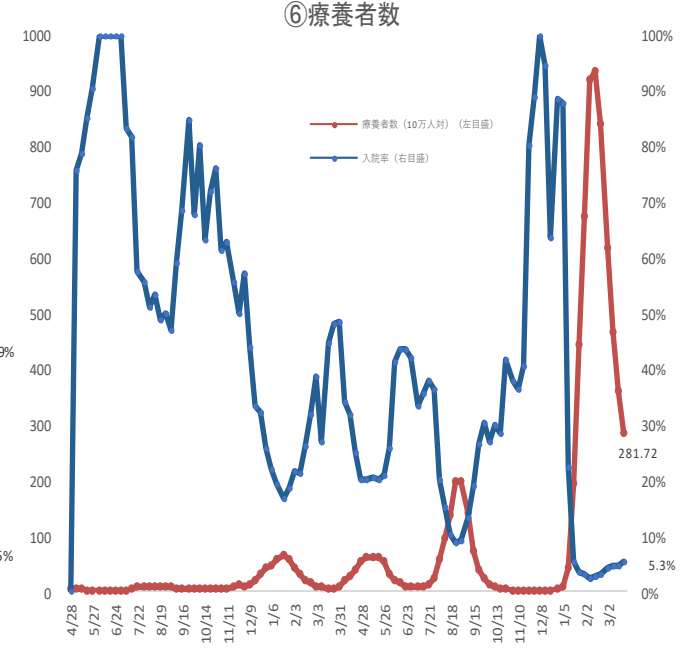
④入院者数 / 重症者数



⑤病床使用率

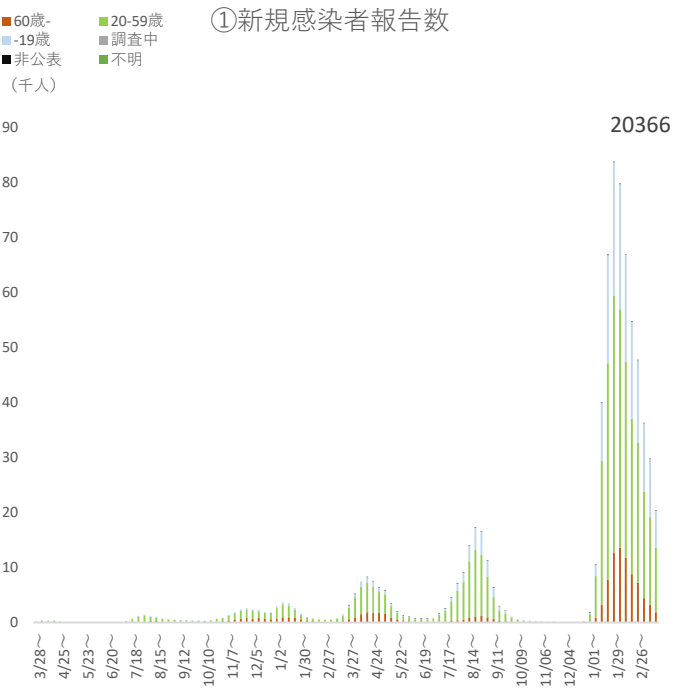


⑥療養者数

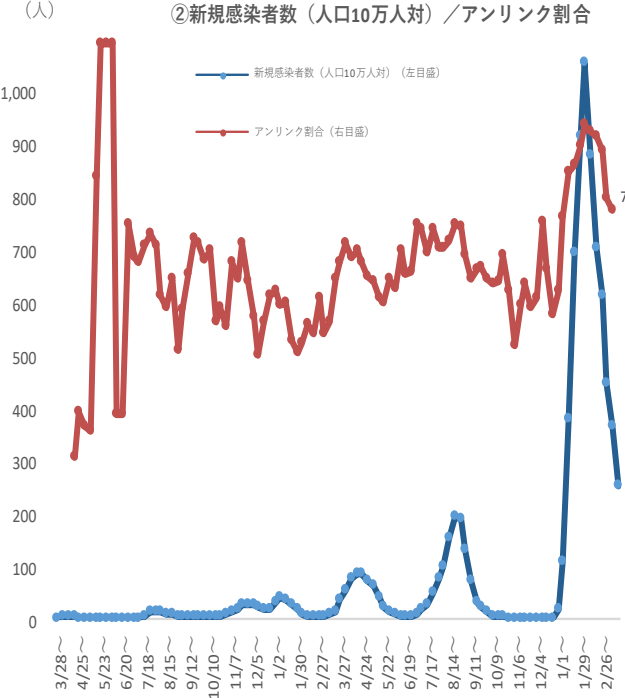


※ 人口10万対の人数は、令和3年12月4日までは総務省統計局における各年10月1日時点の人口推計の数値、令和3年12月5日からは令和2年国勢調査の数値により算出している。

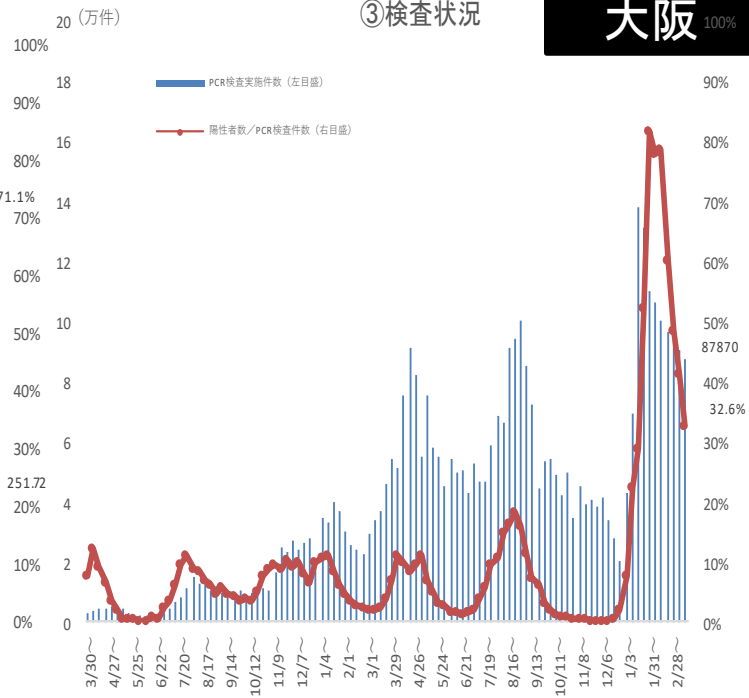
①新規感染者報告数



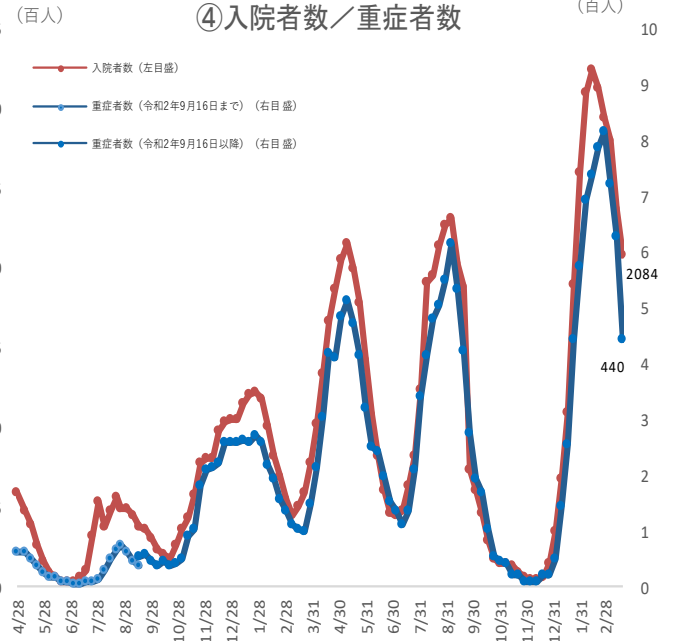
②新規感染者数(人口10万人対) / アンリンク割合



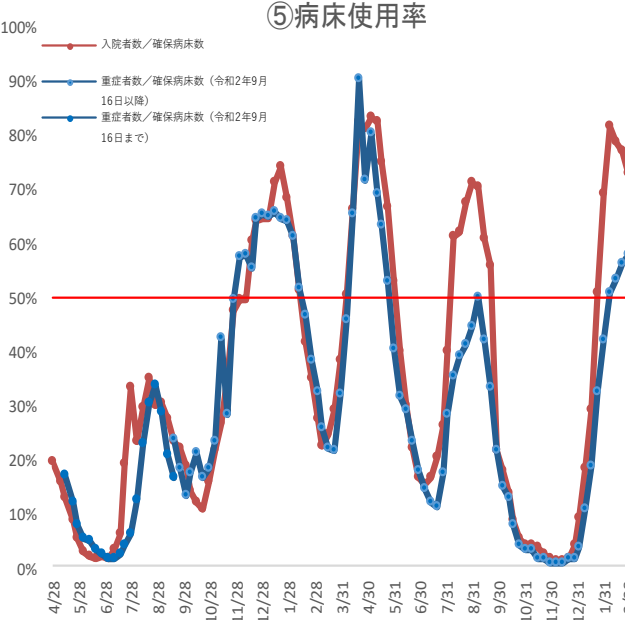
③検査状況



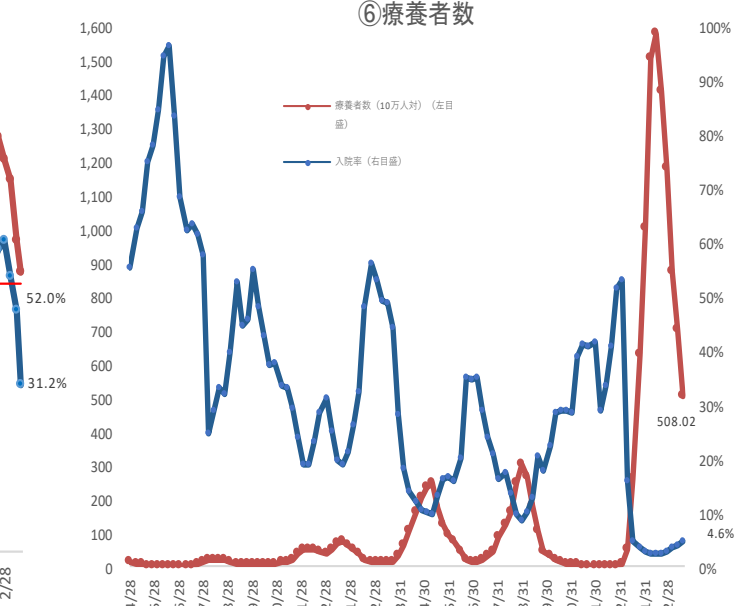
④入院者数 / 重症者数



⑤病床使用率



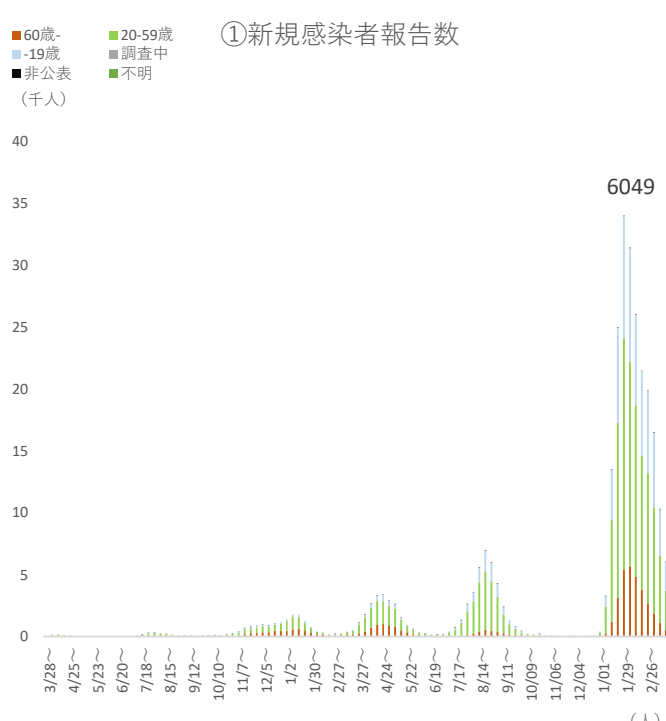
⑥療養者数



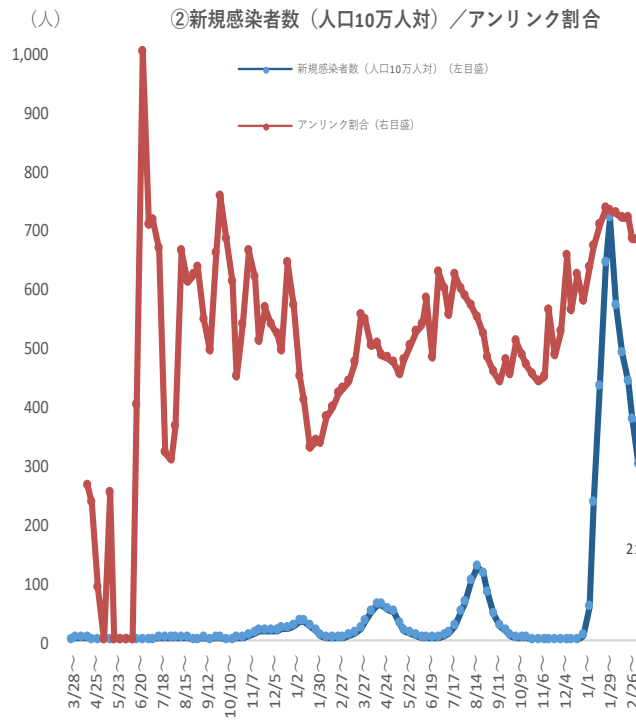
※ 人口10万対の人数は、令和3年12月4日までは総務省統計局における各年10月1日時点の人口推計の数値、令和3年12月5日からは令和2年国勢調査の数値により算出している。

(資料出所) 3月30日ADB資料

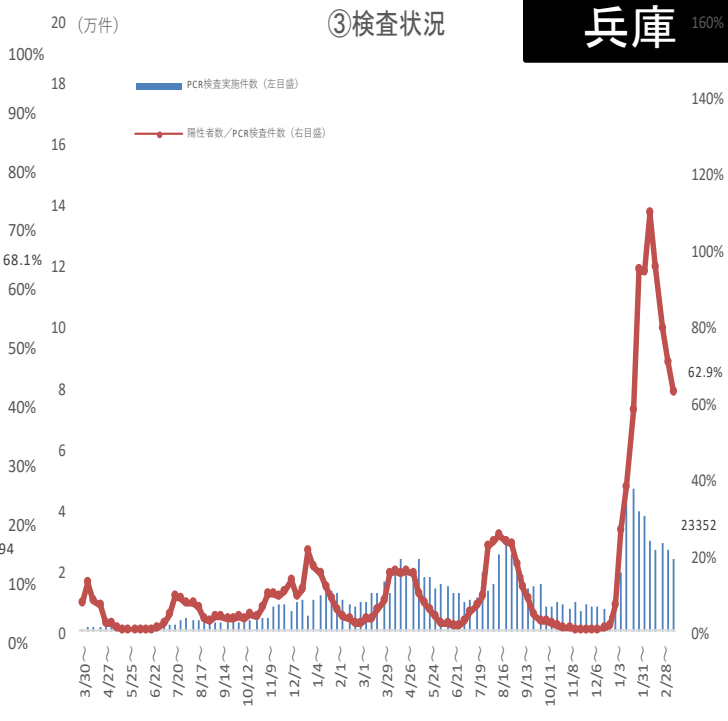
①新規感染者報告数



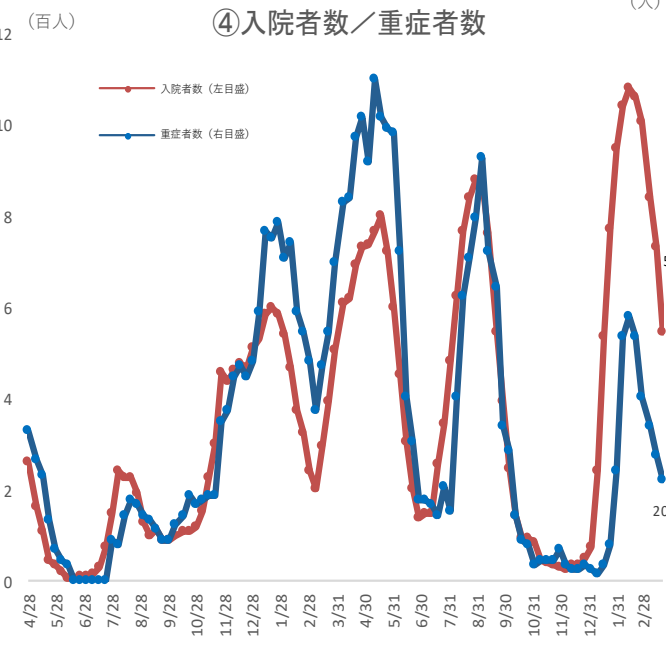
②新規感染者数(人口10万人対)／アリンク割合



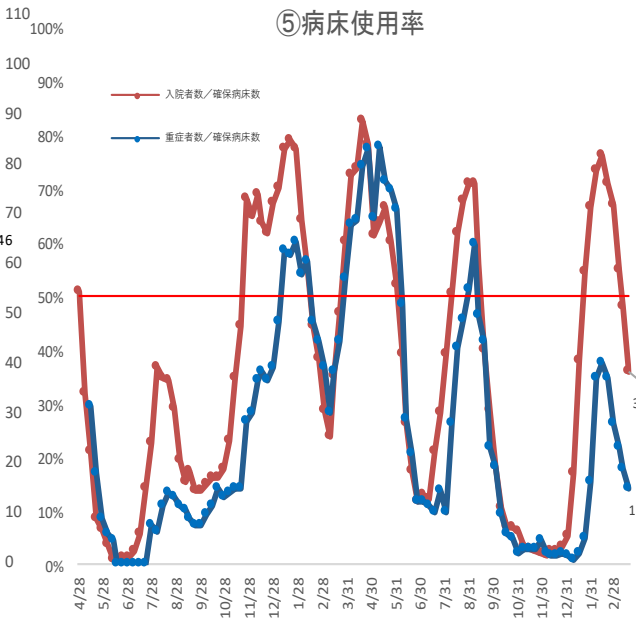
③検査状況



④入院者数／重症者数



⑤病床利用率

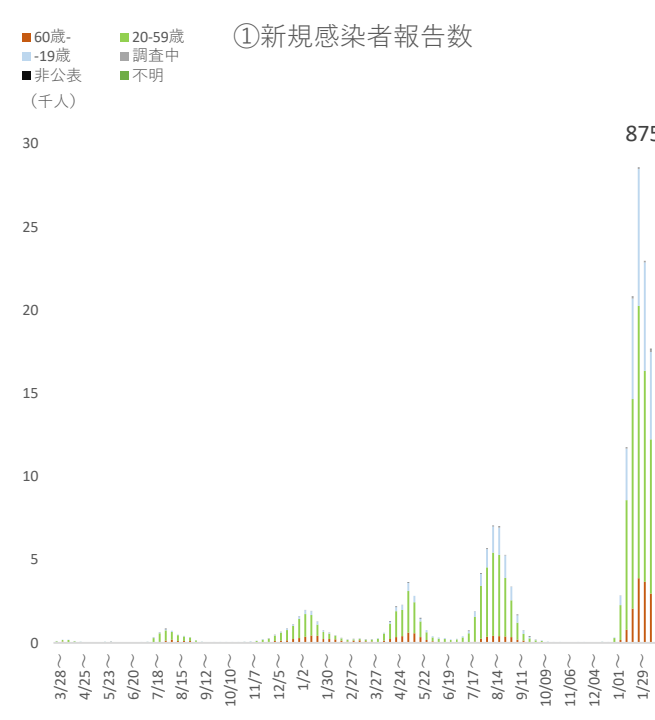


⑥療養者数

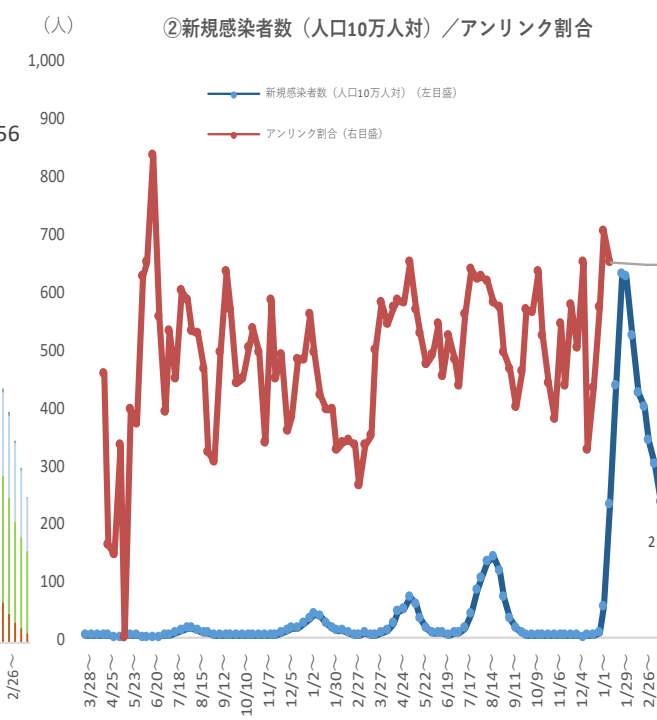


※ 人口10万対の人数は、令和3年12月4日までは総務省統計局における各年10月1日時点の人口推計の数値、令和3年12月5日からは令和2年国勢調査の数値により算出している。

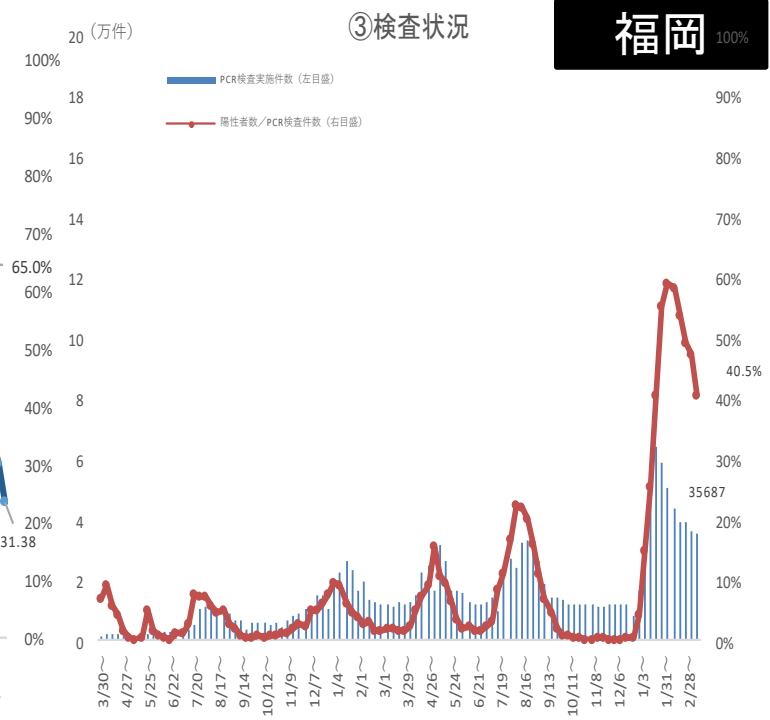
①新規感染者報告数



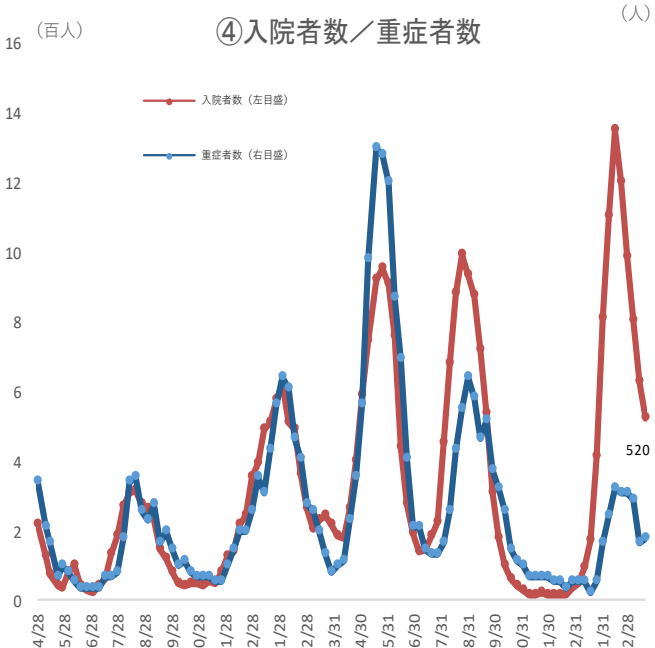
②新規感染者数(人口10万人対)／アリンク割合



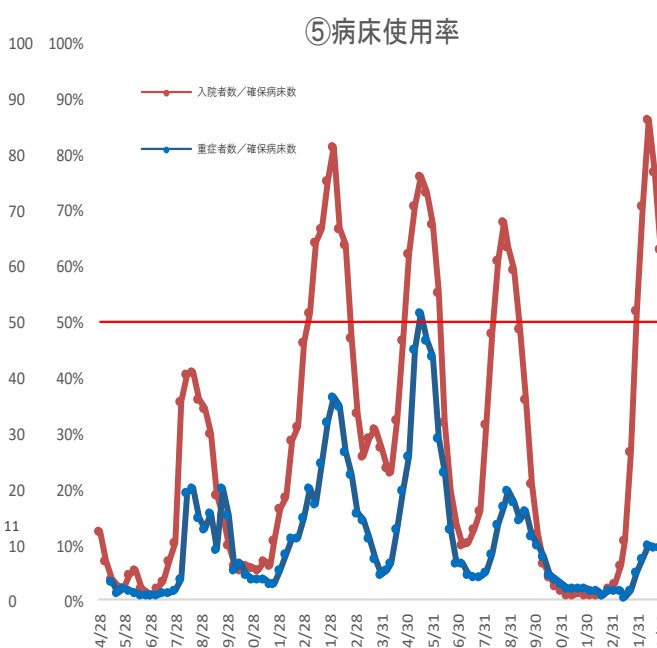
③検査状況



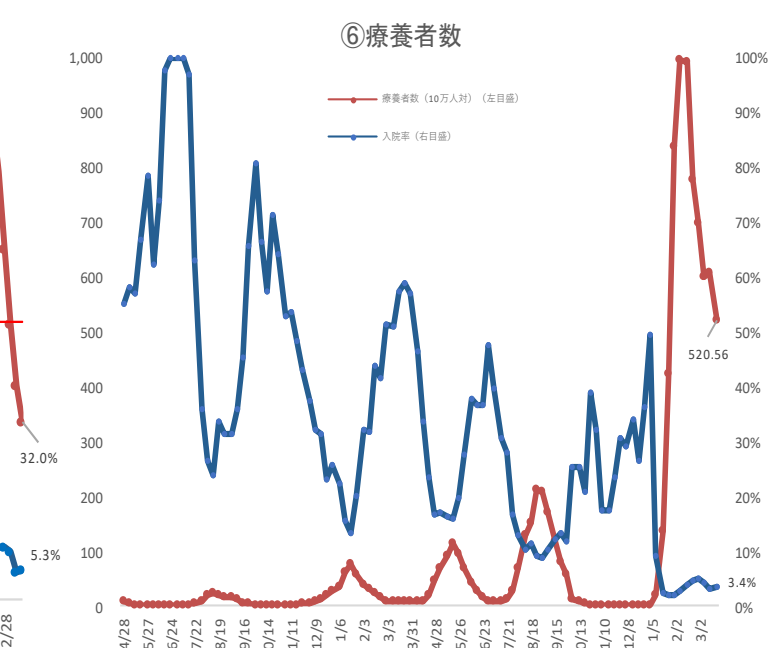
④入院者数／重症者数



⑤病床利用率



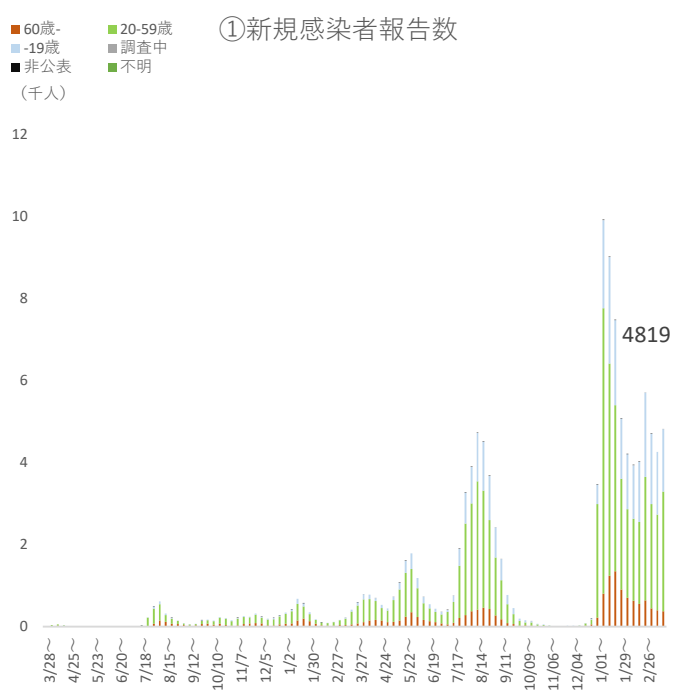
⑥療養者数



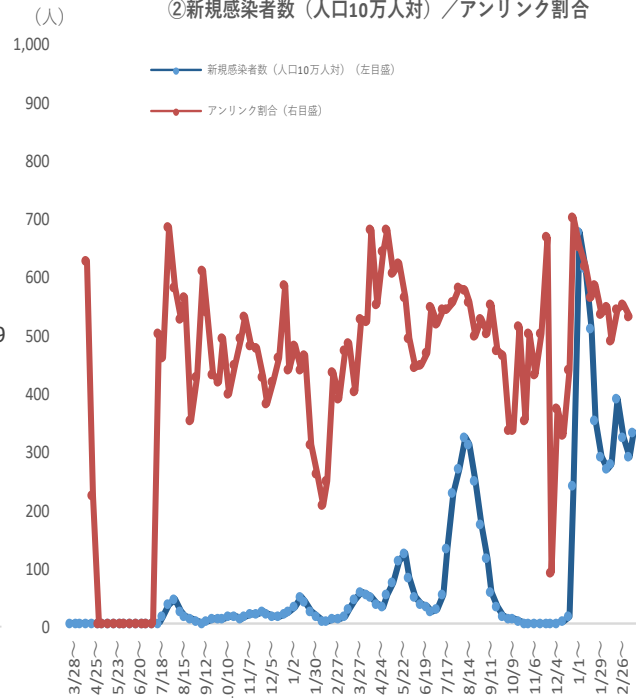
※人口10万対の人数は、令和3年12月4日までは総務省統計局における各年10月1日時点の人口推計の数値、令和3年12月5日からは令和2年国勢調査の数値により算出している。

(資料出所) 3月30日ADB資料

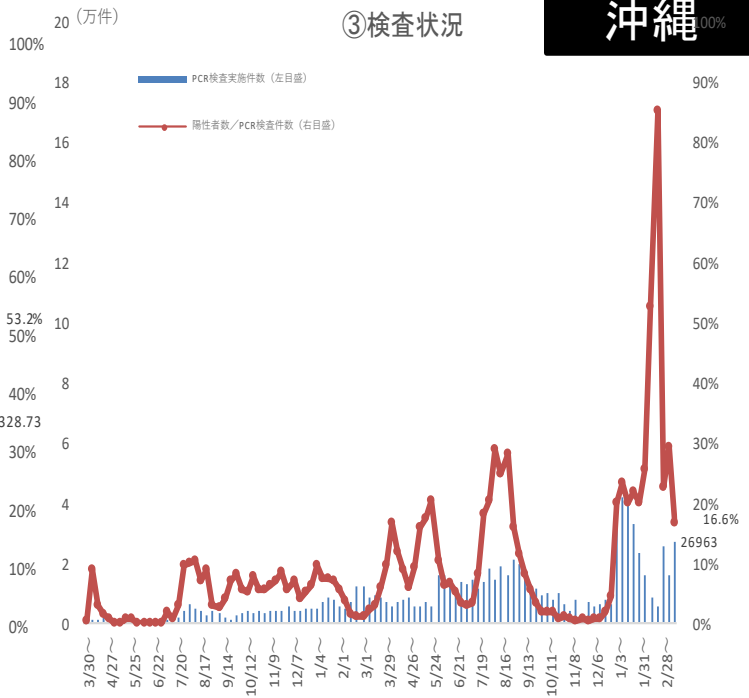
①新規感染者報告数



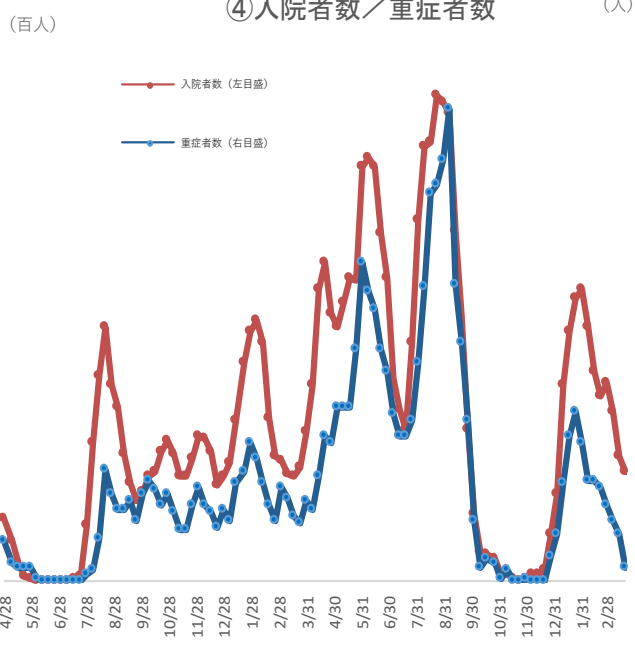
②新規感染者数(人口10万人対)／アリンク割合



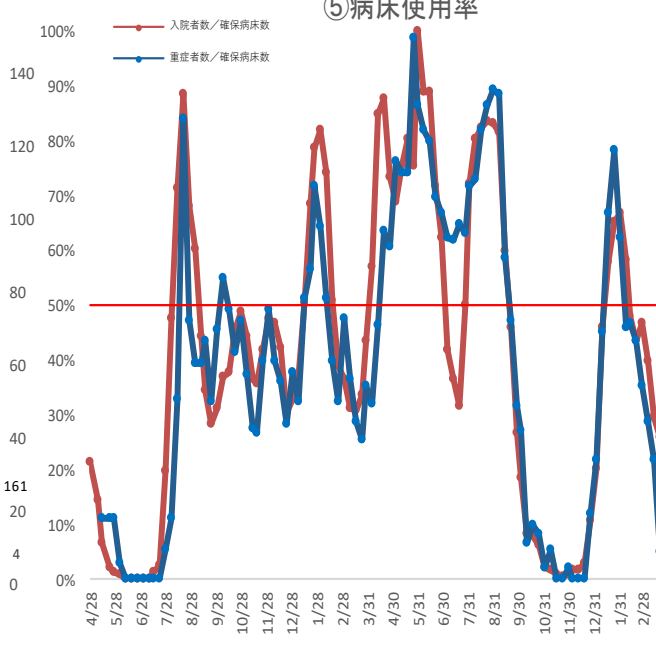
③検査状況



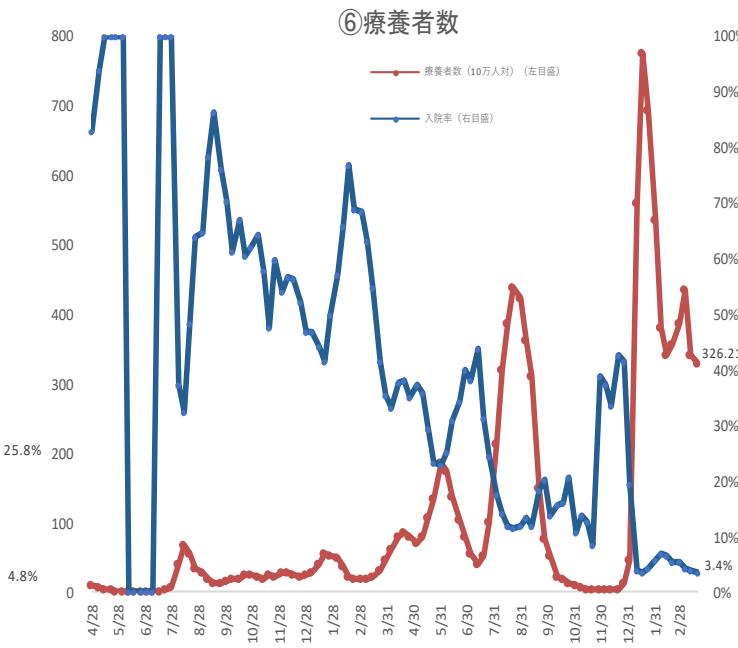
④入院者数／重症者数



⑤病床利用率



⑥療養者数



※ 人口10万対の人数は、令和3年12月4日までは総務省統計局における各年10月1日時点の人口推計の数値、令和3年12月5日からは令和2年国勢調査の数値により算出している。

(資料出所) 3月30日ADB資料